

# 河内長野市埋蔵文化財調査報告書Ⅳ

宮山遺跡  
西之山町遺跡  
岩湧寺遺跡  
膳所藩陣屋跡

1998年3月

河内長野市教育委員会

## 序 文

大阪府の南東部に位置する河内長野市は、市域を高野街道を初めとする街道が通り、南河内における交通の要衝として発展してきた街です。このため、市内には金剛寺、観心寺などの寺社に代表される重要文化財や、多くの埋蔵文化財が残されています。

このような河内長野市も、大阪市内への通勤圏に位置しているため、近年になって住宅都市として急速に開発が進んでいます。

開発がもたらす影響は自然や文化財にとって大きなものです。とくに埋蔵文化財にとっては直接的にかかわってくる大きな問題でもあります。

開発を必要とすると同時に、失われていく遺跡に託された先人達のメッセージを現在の市民、さらには未来の市民へと伝えていかなければなりません。

本書は河内長野市に存在する遺跡の発掘調査の成果を収録しています。先人達が残したメッセージの一部でも理解していただければ幸いです。

発掘調査に協力していただきました施主の方々の埋蔵文化財への深い御理解に末尾ながら謝意を表すものです。

平成10年3月

河内長野市教育委員会  
教育長 中尾謙二

## 例 言

1. 本書は平成9年度に河内長野市教育委員会が国庫補助事業として計画、実施した膳所藩陣屋跡及び、先年に実施された市内遺跡の発掘調査報告書である。  
宮山遺跡の調査にかかる費用は河内長野市、西之山町遺跡については有限会社雷、岩湧寺遺跡については大阪府が各々負担した。
2. 国庫補助事業の調査については、本市教育委員会教育部社会教育課文化財保護係土査尾谷雅彦・同係鳥羽正剛を担当者として、平成9年4月1日から着手し、平成10年3月31日をもって終了した。
3. 調査及び本書の執筆は尾谷・鳥羽が行い、編集は同市立ふれあい考古館中西和子が補佐した。なお宮山遺跡の縄文土器については合田幸美氏（財大阪府文化財調査研究センター）から玉稿を賜った。文責については文末に記載している。
4. 発掘調査および内業整理については下記の方々の参加・協力を得た。（敬称略）  
阿部園子・池田武（現鳥取県大栄町教育委員会）・嘉悦真紀子・川島伸子・喜多順子・久保八重子・古島亮介・小森光・杉本（中村）清美（現大阪府教育委員会）・杉本祐子・鈴木（明地）奈緒美・高田加容子・高橋知佐子・田川富子・田中良明・田村知子・辻宏子・辻野秀之・中尾智行（現財大阪府文化財調査研究センター）・中田文・中野雅美・中村嘉彦・林和宏・坂東正法・東田幸子（市立ふれあい考古館）・東原美佳・平井令子・福島理甫・藤井美佐子・占井晶子・古池陽子・栢本裕子・松尾和代・松村佳映・三井義勝（現滋賀県愛知川町教育委員会）・牟田口京子・山上美幸・山田（重野）真紀・山本有佳子・結城（坂本）桂子
5. 発掘調査については、下記の方々の指導、協力を得た。記して感謝する。（敬称略）  
辻秀和・有限会社雷・株式会社島田組・写測エンジニアリング株式会社・株式会社エアロ
6. 写真撮影は遺構については尾谷・鳥羽、遺物については中西が行った。
7. 本調査の記録はスライドフィルムなどでも保管しており、広く一般の方々に活用されることを望むものである。

## 凡 例

1. 本報告書に記載されている標高はTPを基準としている。
2. 土色は新版標準土色帖による。
3. 平面測量は国家座標第VI系による5mメッシュを基準に実施したものである。
4. 図中の北は座標北である。
5. 本書の遺構名は下記の略記号を用いた。  
SB…堅穴住居 S D…溝 SG…耕作地 SK…土坑  
SP…遺物出土ピット
6. 遺構実測図の縮尺は、1/30・1/40・1/60・1/80・1/125・1/200・1/300とした。
7. 遺物実測図の縮尺は、土器1/4・石器2/3・銅鉄実物大を基準としているが、遺物の状況により変えている。
8. 瓦器・瓦質土器・須恵質土器・陶磁器の断面は黒塗り、縄文土器・土師器・土師質土器の断面は白抜きである。
9. 遺物番号と写真図版の番号は一致する。



第5図	第2調査区遺構配置図(1/200)	6
第6図	第3調査区遺構配置図(1/200)	6
第7図	S B 1 遺構実測図(1/60)	7
第8図	第4調査区遺構配置図(1/200)	7
第9図	S B 1 出土遺物実測図(1)	8
第10図	S B 1 出土遺物実測図(2)	9
第11図	S B 1 出土遺物実測図(3)	11
第12図	S B 1 出土遺物実測図(4)	13

西之山町遺跡 NYC90-1

第13図	調査区位置図(1/5000)	16
第14図	遺構配置図(1/300)	16
第15図	S K 1 遺構断面実測図(1/40)	17
第16図	S K 1 出土遺物実測図	17
第17図	S P 1 出土遺物実測図	18
第18図	包含層出土遺物実測図	18

岩湧寺遺跡 IWT92-1

第19図	調査区位置図(1/5000)	20
第20図	第1調査区遺構配置図(1/125)	21
第21図	S G 1 遺構断面実測図(1/40)・出土遺物実測図	22
第22図	S B 1 遺構断面実測図(1/60)	22
第23図	S K 1・2 遺構断面実測図(1/40)	22
第24図	S K 1・2 出土遺物実測図	22
第25図	S K 3 遺構実測図(1/30)	23
第26図	S K 3 出土遺物実測図(1)	23
第27図	S K 3 出土遺物実測図(2)	24
第28図	S K 4 出土遺物実測図	24
第29図	S P 1・2 出土遺物実測図	24
第30図	包含層出土遺物実測図	25
第31図	第2調査区遺構配置図(1/125)	25
第32図	包含層出土遺物実測図	25
第33図	第3調査区遺構配置図(1/125)	26
第34図	第4調査区遺構配置図(1/125)	26
第35図	包含層出土遺物実測図	26
第36図	包含層出土遺物実測図	27
第37図	第7調査区遺構配置図(1/125)	27

第38図	S G 2 遺構断面実測図(1/40)	27
第39図	S G 2 出土遺物実測図	28
膳所藩陣屋跡 ZZH97-1		
第40図	調査区位置図(1/2500)	29
第41図	遺構配置図(1/80)	29
第42図	出土遺物実測図	31

## 表 目 次

第1表	発掘届出件数月別一覧表	1
第2表	主な民間開発発掘調査一欄表	1
第3表	河内長野市遺跡地名表	4

## 図 版 目 次

図版1	宮山遺跡	第1調査区全景(南西から)、第2調査区全景(東から)
図版2	宮山遺跡	第3調査区全景(東から、西から)
図版3	宮山遺跡	S B 1(西から)、第4調査区全景(北から)
図版4	宮山遺跡	出土遺物 第1調査区包含層(1)、S B 1(2~10)
図版5	宮山遺跡	出土遺物 S B 1(11~37)
図版6	宮山遺跡	出土遺物 S B 1(38~63・67~69)
図版7	西之山町遺跡	調査区全景(南西から、南東から)
図版8	西之山町遺跡	出土遺物 S K 1(73)、S P 1(74)、包含層(75~89)
図版9	岩湧寺遺跡	第1調査区上層遺構面全景(北から)、第1調査区下層遺構面全景(南から)
図版10	岩湧寺遺跡	S K 3(南から)、第2調査区全景(南西から)
図版11	岩湧寺遺跡	第3調査区全景(北東から)、第4調査区全景(東から)
図版12	岩湧寺遺跡	第6調査区全景(西から)、第7調査区全景(東から)
図版13	岩湧寺遺跡	出土遺物 S K 3(102・105~109)、S P 2(127)、第1調査区包含層(131)、第2調査区包含層(134・141)、第4調査区包含層(145・146・148)、S G 2(150~152)
図版14	膳所藩陣屋跡	第1調査区全景(南西から)、出土遺物 S K 1(155)、S K 2(156・160)、第1調査区包含層(153・154・157~159・161)

## 第1章 調査の状況

平成9年の文化財保護法57条の2及び3の発掘届及び発掘通知の件数は、総数151件、そのうち発掘届131件、発掘通知20件である。また、今年も新しい遺跡が発見され、新規発見届及び通知は2件提出されている。

今年の発掘届に見られる原因者の状況は、大規模な開発よりも個人住宅の新築及び改築が大部分を占めている。

第1表 発掘届出件数月別一覧表

(平成9年1～12月)

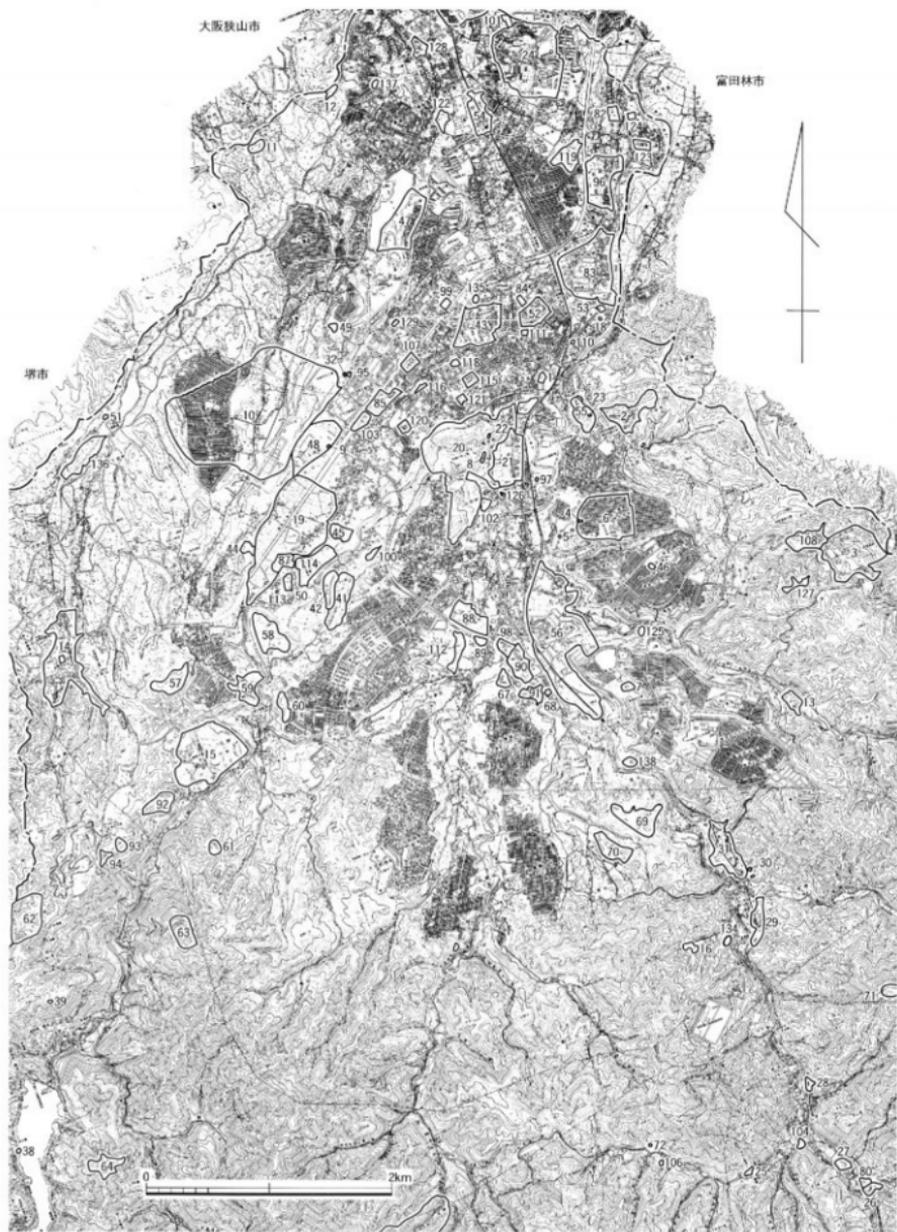
	平成8年度			平成9年度									総数
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
発掘届(57条2)	13	9	7	20	8	7	14	15	7	11	8	12	131
発掘通知(57条3)		1		1	3		5	2	2	1	2	3	20
発見届(57条5)												1	1
発見通知(57条6)			1										1

第2表 主な民間開発発掘調査一覧表

(平成9年1～12月)

遺跡名	調査期間	申請者	申請面積	用途	区分	備考
高向遺跡	H9.1.9	芝谷 勝	274.25㎡	専用住宅	国庫	遺構・遺物なし
東高野街道	H9.1.9～1.10	今井義明	83.59㎡	専用住宅	国庫	近世の土師質土器・陶磁器が出土
向野遺跡	H9.1.14～1.17	中川一人	115.27㎡	専用住宅	国庫	中世の土坑・ピットを検出
上原東遺跡	H9.1.17	松葉富美子	718.11㎡	共同住宅	原因者	近世の陶磁器が出土
市町東遺跡	H9.1.22	道端 清	323.00㎡	専用住宅・分譲住宅	原因者	遺構・遺物なし
鳥帽子形城跡	H9.1.22	中根正二郎	409.00㎡	専用住宅	国庫	遺構・遺物なし
藤所塚陣屋跡	H9.1.27	日下操子	264.14㎡	専用住宅・分譲住宅	原因者	遺構・遺物なし
市町東遺跡	H9.1.27	田中三代雄	960.00㎡	擁壁工事	原因者	中世の瓦器・土師質土器が出土
堀谷遺跡	H9.2.3	大原博之	100.00㎡	専用住宅	国庫	遺構・遺物なし
三日月遺跡	H9.2.7	吉川隆典	402.73㎡	専用住宅	国庫	中世の瓦器・土師質土器が出土
長徳宮跡部	H9.2.18	寺元 隆	3490.00㎡	老人保健施設	原因者	遺構・遺物なし
三日月遺跡	H9.3.3～3.7	油崎 保	335.18㎡	専用住宅	国庫	古代から中世の須恵器・土師器・黒色土器・土師質土器・土師が出土
市町西遺跡	H9.3.4～4.14	㈱大阪土地建物	1886.88㎡	宅地造成・分譲住宅	原因者	中世の建物・井戸を検出 瓦器出土
尾崎遺跡	H9.3.11	関西ビル建材㈱	2722.00㎡	分譲住宅	原因者	古墳時代の須恵器が出土

遺跡名	調査期間	申請者	申請面積	用途	区分	備考
高向遺跡	H9.4.2~4.3	林 輝夫	542.28㎡	専用住宅	国 庫	黒色土器・中世の瓦器が出土
三日市遺跡	H9.4.7~5.14	辻本久夫	204.32㎡	専用住宅	原因者	古墳時代の須恵器・土師器が出土
東高野街道	H9.4.8	津村清和	80.84㎡	専用住宅	国 庫	遺構・遺物なし
西代藩陣屋跡	H9.4.16	中尾雅幸	187.63㎡	専用住宅	国 庫	近世の土師質土器・陶磁器が出土
松林寺遺跡	H9.4.17	城根園子	100.32㎡	専用住宅	原因者	遺構・遺物なし
松林寺遺跡	H9.4.17	平井一民	100.42㎡	専用住宅	原因者	遺構・遺物なし
松林寺遺跡	H9.4.17	今井 均	100.26㎡	専用住宅	原因者	遺構・遺物なし
菰谷遺跡	H9.4.21	東尾 實	1316.40㎡	宅地造成	原因者	遺構・遺物なし
上原中遺跡	H9.4.24	北居晃三	1044.55㎡	店舗	原因者	遺構・遺物なし
東高野街道	H9.5.6	高田 勉	80.00㎡	専用住宅	原因者	遺構・遺物なし
天野山金剛寺	H9.5.12	大谷義隆	811.97㎡	専用住宅	原因者	遺構・遺物なし
西代藩陣屋跡	H9.5.15~5.16	山田安代	143.56㎡	専用住宅	国 庫	近世の瓦質火鉢・陶磁器が出土
東高野街道	H9.5.20~5.21	山岡太郎	78.35㎡	専用住宅	国 庫	遺構・遺物なし
尾崎遺跡	H9.6.4	奥 テル子	1986.30㎡	分譲住宅	原因者	中世の土師質土器が出土
尾崎北遺跡	H9.6.12・ 7.25・8.12	藤塔大作	2020.23㎡	宅地造成	原因者	古墳時代の須恵器・土師器が出土
尾崎北遺跡	H9.8.21~8.29	村角建設㈱	2020.23㎡	宅地造成	原因者	古墳時代の竪穴住居を検出
菰谷遺跡	H9.6.16	ホワイトハウス	679.87㎡	分譲住宅	原因者	中世の土師質土器が出土
双子塚古墳跡	H9.7.14	中川啓夫	607.20㎡	専用住宅	原因者	遺構・遺物なし
西代藩陣屋跡	H9.8.1~8.15	例済教学園	3678.71㎡	幼稚園	原因者	近世の陶磁器・瓦が出土
烏帽子形城跡	H9.8.27	株式会社木材	976.94㎡	分譲住宅	原因者	遺構・遺物なし
熊所藩陣屋跡	H9.9.1~9.5	辻 秀和	619.23㎡	専用住宅	国 庫	本書掲載
市町東遺跡	H9.9.4	御石川工務店	463.81㎡	宅地造成	原因者	中世の土師質土器・瓦質土器が出土
高向遺跡	H9.9.9	堂上定男	478.82㎡	専用住宅	国 庫	遺構・遺物なし
天野山金剛寺	H9.9.29~10.1	例天野山金剛寺	20874.99㎡	庫裏	国 庫	近世の石組遺構を検出瓦・土師質土器が出土
三日市遺跡	H9.9.30	谷山 育	275.13㎡	専用住宅	国 庫	遺構・遺物なし
三日市遺跡	H9.11.11	古谷昌男	1057.49㎡	共同住宅	原因者	遺構・遺物なし
長池家跡群	H9.12.19	山本隆夫	886.71㎡	墓地造成	原因者	遺構・遺物なし
市町東遺跡	H9.12.22	有田節男	76.27㎡	専用住宅	原因者	遺構・遺物なし
本多町北遺跡	H9.12.22~2.28	日本農業㈱	3837.63㎡	店舗	原因者	近世の土師質土器・陶磁器が出土



第1図 河内長野市遺跡分布図(1/40000)

番号	文化財名称	種 類	時 代	番号	文化財名称	種 類	時 代
1	長野神社遺跡	社寺	室町	69	石 仏 城 跡	城館	中世
2	河 合 寺	社寺		70	佐 近 城 跡	城館	中世
3	観 心 寺	社寺	平安以降	71	旗 原 城 跡	城館	中世
4	大 師 山 古 墳	古墳	古墳(前期)	72	葛 城 第 16 経 塚	経塚	
5	大 師 山 南 古 墳	古墳?	古墳(後期)	(73)	葛 城 第 18 経 塚	経塚	
6	大 師 山 遺 跡	集落	弥生(後期)	(74)	葛 城 第 19 経 塚	経塚	
7	興 禪 寺	社寺		(75)	佐 尼 齋	城館	中世
8	鳥 飼 子 形 八 幡 神 社	社寺	室町	(76)	大 沢 齋	城館	中世
9	塚 穴 古 墳	古墳	古墳(後期)	(77)	三 国 山 経 塚	経塚	
10	長 池 齋 跡 郡	生産	平安～近世	(78)	光 滝 寺	礼寺	
11	小 山 田 1 号 古 墓	墳墓	奈良	(79)	鎌 子 城 跡	城館	中世
12	小 山 田 2 号 古 墓	墳墓	奈良	80	蟹 井 廻 神 社 遺 跡	礼寺	
13	延 命 寺	社寺		(81)	川 上 神 社 遺 跡	礼寺	
14	金 剛 寺	社寺	平安以降	82	千 代 田 神 社 遺 跡	礼寺	
15	日 野 観 音 寺 遺 跡	社寺	中世	83	向 野 遺 跡	経・経	縄文・平安～近世
16	地 蔵 寺	社寺		84	吉 野 町 遺 跡	散布地	中世
(17)	岩 湧 寺	社寺	平安以降	85	上 原 北 遺 跡	集落	中世
18	瓦 ノ 木 古 墳	古墳	古墳(後期)	86	大 日 寺 遺 跡	社寺	弥生・中世
19	高 向 遺 跡	集落	旧石器～中世	87	高 向 南 遺 跡	散布地	縄倉
20	馬 徳 子 形 城 跡	城館	中世～近世	88	小 堀 遺 跡	集落	縄文～奈良
21	喜 多 町 遺 跡	集落	縄文・中世	89	加 塩 遺 跡	集落	古墳(後期)
22	馬 徳 子 形 古 墳	古墳	古墳(後期)	90	尾 崎 遺 跡	集落	古墳～中世
23	末 広 齋 跡	生産		91	ジ ョ ウ ノ マ エ 遺 跡	城館?	
24	塩 谷 遺 跡	散布地	縄文～中世	92	仁 王 山 城 跡	城館	中世
25	渡 谷 八 幡 神 社	社寺		93	タ ヲ ラ 城 跡	城館	中世
26	蟹 井 廻 南 遺 跡	散布地	中世	94	岩 立 城 跡	城館	中世
27	蟹 井 廻 北 遺 跡	散布地	中世	95	上 原 近 世 瓦 窯	生産	近世
28	大 見 駅 北 方 遺 跡	散布地	中世	96	西 町 東 遺 跡	散布地	弥生・中世
29	平 早 口 駅 南 遺 跡	散布地	中世	97	上 田 町 窯 跡	生産	近世
30	岩 瀬 薬 師 寺	墳墓	近世	98	尾 崎 北 遺 跡	集落	古墳
31	清 水 遺 跡	散布地	中世	99	西 之 山 町 遺 跡	散布地	中世
32	伝「仲哀廟」古墳	古墳?		100	野 間 里 遺 跡	散布地	平安
(33)	堂 村 地 蔵 堂 跡	社寺	近世	101	鳴 尾 遺 跡	散布地	中世
34	榎 塚 塚 墓	墳墓	近世	102	上 田 町 遺 跡	散布地	古墳・中世
(35)	中 村 阿 弥 陀 堂 跡	社寺	近世	103	上 原 中 遺 跡	散布地	古墳・中世
(36)	栗 木 村 観 音 堂 跡	社寺	近世	104	小 野 家	墳墓	
(37)	西 の 村 観 音 堂 跡	社寺	近世	(105)	葛 城 第 17 経 塚	経塚	
38	清 水 阿 弥 陀 堂 跡	社寺	近世	106	藤 部 空 跡	社寺	中世以降
39	滝 尻 弥 勒 堂 跡	社寺	近世	107	野 作 遺 跡	集落	中世
(40)	宮 の 下 内 墓	墳墓	古墳	108	寺 元 遺 跡	集落	奈良・中世
41	宮 山 古 墳	古墳?	古墳	(109)	鳩 原 遺 跡	散布地	中世
42	宮 山 遺 跡	集落	縄文・奈良	110	法 師 家 古 墳	古墳	
43	西 代 藤 屋 跡	城館	江戸	111	山 上 藤 山 古 墳	古墳	
44	上 原 町 墓 地	墳墓	熱島～奈良	112	西 浦 遺 跡	集落	古墳・中世
45	惣 持 寺 跡	社寺	鎌倉	113	地 福 寺 跡	社寺	近世
46	築 山 遺 跡	祭祀	中世～近世	114	宮 の 下 遺 跡	散布地	平安～中世
47	寺 ケ 曲 遺 跡	散布地	縄文	115	栗 町 遺 跡	散布地	弥生・古墳
48	上 原 遺 跡	散布地	旧石器～近世	116	綿 町 遺 跡	散布地	中世
49	住 吉 神 社 遺 跡	社寺		(117)	太 井 遺 跡	散布地	中世
50	高 向 神 社 遺 跡	社寺	中世	118	綿 町 北 遺 跡	散布地	中世・中世
51	臂 が 原 神 社 遺 跡	社寺		119	市 町 西 遺 跡	集落	縄文・中世
52	勝 所 藤 屋 跡	城館	江戸	120	市 町 南 遺 跡	集落	中世
53	双 了 家 古 墳	古墳		121	栄 町 東 遺 跡	散布地	弥生・中世
54	兼 子 尻 遺 跡	散布地	縄文～中世	122	橋 町 東 遺 跡	散布地	弥生
55	河 合 寺 城 跡	城館		123	沙 の 宮 町 南 遺 跡	散布地	奈良
56	二 日 山 遺 跡	集落	旧石器～近世	124	沙 の 宮 町 遺 跡	散布地	中世
57	日 の 谷 城 跡	城館	室町	125	神 方 丘 近 世 墓	墳墓	近世
58	高 木 遺 跡	散布地	縄文	126	堀 福 寺	社寺	中世
59	沙 の 山 城 跡	城館	中世	127	三 味 城 遺 跡	経・経	中世・近世
60	峠 山 城 跡	城館	中世	128	松 林 寺 遺 跡	社寺	近世
61	柳 岡 山 城 跡	城館	中世	129	昭 栄 町 遺 跡	散布地	中世
62	田 見 城 跡	城館	中世	*130	栗 高 野 街 道	街道	平安以降
63	旗 塚 城 跡	城館	中世	*131	西 高 野 街 道	街道	平安以降
64	権 現 城 跡	城館	中世	*132	栗 高 野 街 道	街道	平安以降
(65)	大 神 礼 道 跡	社寺		133	上 原 東 遺 跡	散布地	弥生・中世・近世
66	葛 城 第 15 経 塚	経塚		134	地 蔵 寺 東 方 遺 跡	墳墓	鎌倉
(67)	加 賀 田 神 社 遺 跡	社寺	中世	135	本 多 町 北 遺 跡	散布地	中世
68	唐 申 堂	社寺		136	下 里 町 遺 跡	散布地	古墳・中世
				137	あかしあ台遺跡		

( ) は地図範囲外 \* は街道につき地図上にプロットせず

第3表 河内長野市遺跡地名表

## 第2章 調査の結果

### 第1節 宮山遺跡 (MYK90-1)

#### 1 概略

調査地は、高向1719番地他、現在の大阪府立「花の文化園」身障者用駐車場にあたり、河内長野市立林業総合センター及び府立「花の文化園」開園に伴う、周辺整備の一環として計画された3カ所の駐車場予定地のひとつである。調査は、平成2年5月9日から平成2年9月28日まで実施した。

調査地点は、石川の右岸中位段丘上に位置し、標高約130mを測る。この段丘の後背には、標高約210mの大阪層群の台地（現南花台）が位置している。調査は4カ所に試掘坑を設定して実施した。



第2図 調査区位置図(1/2500)

#### 2 遺構と遺物

##### (1) 第1調査区(第3・4図、図版1・4)

調査地の南側に長さ約19m、幅約2mで設定した。層序は3層あり、上層が表土(層厚0.13m)、中層(層厚0.16m)が暗赤褐色シルト(5YR3/3)、下層(層厚0.13m)が黒褐色シルト(5YR2/1)になっている。地山は、玉石混じりの段丘礫層である。

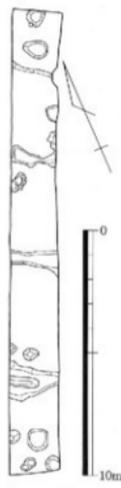
明確な遺構は確認されず、溝やピット状の窪みが数カ所見られた。

遺物は縄文土器・土師器・黒色土器の細片と「和同開珎」(1)が出土している。直径2.4cmで「和」の部分が欠損している。銭の周囲には鋳型のはみ出し部分が残っている。

「開」の書体は隸開である。



第4図 包含層出土遺物実測図



第1調査区

第3図 第1調査区遺構配置図(1/200)

第2調査区 (2) 第2調査区(第5図、図版1)



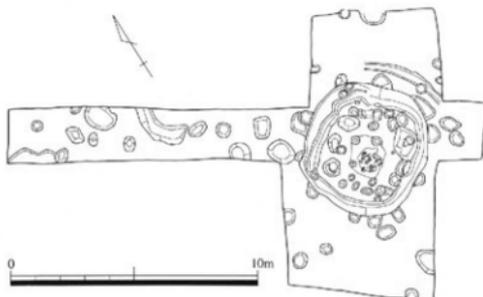
第5図 第2調査区遺構配置図(1/200)

第1調査区の北側約17mに長さ約20m、幅約2.4mで設定した。層序は3層あり、上層が表土(層厚0.1m)、中層(層厚0.1m)が暗赤褐色砂礫混じりシルト(5YR3/3)、下層(層厚0.2m)が黒褐色シルト(5YR2/1)になっている。地山は、玉石混じりの段丘礫層である。

遺構はピットと溝が検出された。しかし、住居等には復元できなかった。

遺物は、縄文土器の深鉢と思われる破片や器種不明のものなど19点、土師器の坏・壺・器種不明の細片など12点、サヌカイトの剥片1点が出土したが実測できなかった。

第3調査区 (3) 第3調査区(第6・7・9～12図、図版2～6)

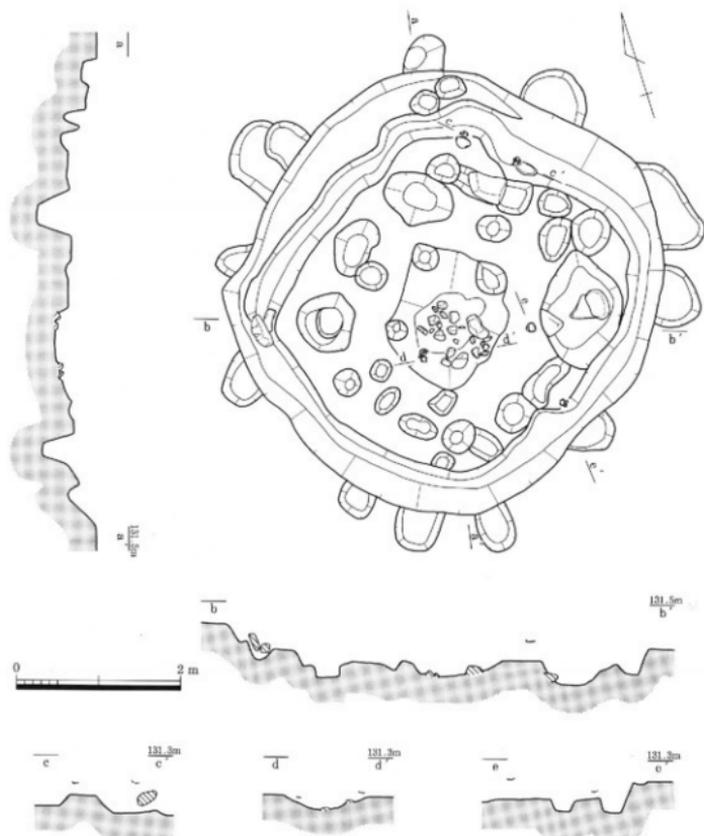


第6図 第3調査区遺構配置図(1/200)

第2調査区の北側約20mに長さ約20m、幅約2.2mで設定し、後に拡張した。層序は3層あり、上層が表土(層厚0.16m)、中層(層厚0.23m)が暗褐色シルト(5YR3/3)、下層(層厚0.16m)が黒褐色シルト(5YR2/1)になっている。地山は玉石混じりの段丘礫層である。

遺構は、多くのピットとともに竪穴住居「SB1」が一棟検出された。SB1の平面形は隅丸方形気味の円形を呈している。規模は長径5.3m、短径5mを測る。壁高は0.3mを測り、壁際には幅0.4m、深さ0.2mの壁溝が巡っている。住居中央には炉跡と思われる不定形な楕円形を呈する土坑が位置する。土坑の規模は長径1.8m、短径1.3m、深さ0.15mを測る。また、壁溝内側に沿って柱穴が配されている。柱穴は径0.26～0.66m、深さ0.13m～0.39mを測った。

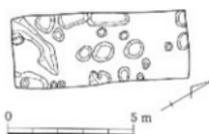
遺物は、サヌカイト製石鎌(2)・剥片3点、砂岩製叩き石(3～7)・台石(8～10)・縄文土器(11～71)が出土した。遺物の大半がSB1の埋土から出土した。



第7図 SB1遺構実測図(1/60)

## (4) 第4調査区(第8図、図版3)

第3調査区の東側約15mに長さ約7m、幅約3mで設定した。層序は4層あり、上層が表土(層厚0.16m)、第2層(層厚0.19m)が灰黄褐色シルト(10YR5/2)、第3層(層厚0.16m)が黒褐色シルト(5YR2/1)、第4層(層厚0.39m)は褐色シルト(7.5YR4/3)と橙砂混じり礫(7.5YR6/6)のブロック土になっている。地山は玉石混じりの段丘礫層である。

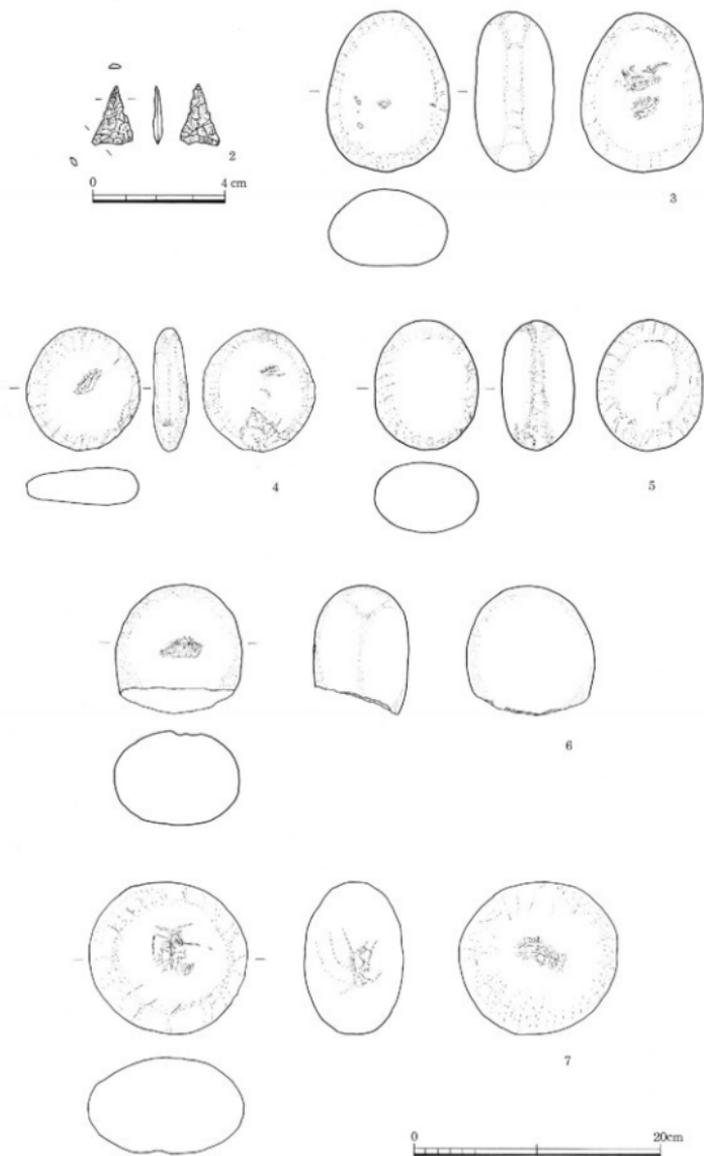


第8図 第4調査区遺構配置図(1/200)

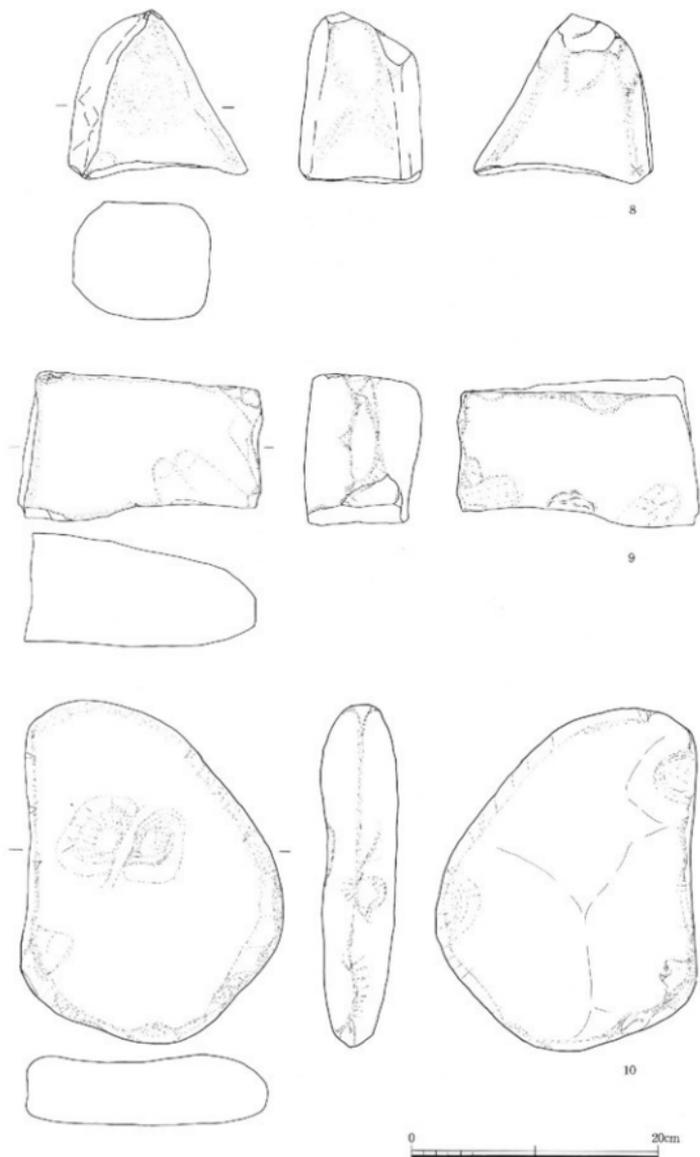
遺構は、多くのピットが検出されたが明確な遺構に復元できなかった。

遺物は、縄文土器片が6点、土師器片が1点出土したが、実測できなかった。

第4調査区



第9圖 SB1出土遺物実測図(1)



第10図 SB I 出土遺物実測図(2)

### 3 SB1出土縄文土器について

SB1出土遺物は、コンテナ(底面40×60cm)に平置きして9コンテナの量である。出土遺物はサヌカイト製石鏃(2)・剝片3点、砂岩製石製品(3~10)以外はすべて土器片である。土器片は接合をこころみだが完形になるものはなく、接合後の状態で、土器片の大きさが一辺5~10cmのものが平置き2コンテナ、一辺5cm以下のものが平置き7コンテナである。前者はすべて実測し、これに含まれない器種は後者から抽出して実測した。実測図の掲載順は、深鉢口縁部・頸部・胴部、浅鉢、底部である。深鉢、浅鉢の器種分類は、北白川追分町縄文遺跡における分類<sup>(註1)</sup>に基本的に準じている。北白川追分町縄文遺跡にあり、SB1出土遺物にない器種は器種名を欠いており、かならずしも器種名は連続していない。

#### (1) 深鉢口縁部(第11・12図、図版5・6)

深鉢A類

[深鉢A類] (11~37)

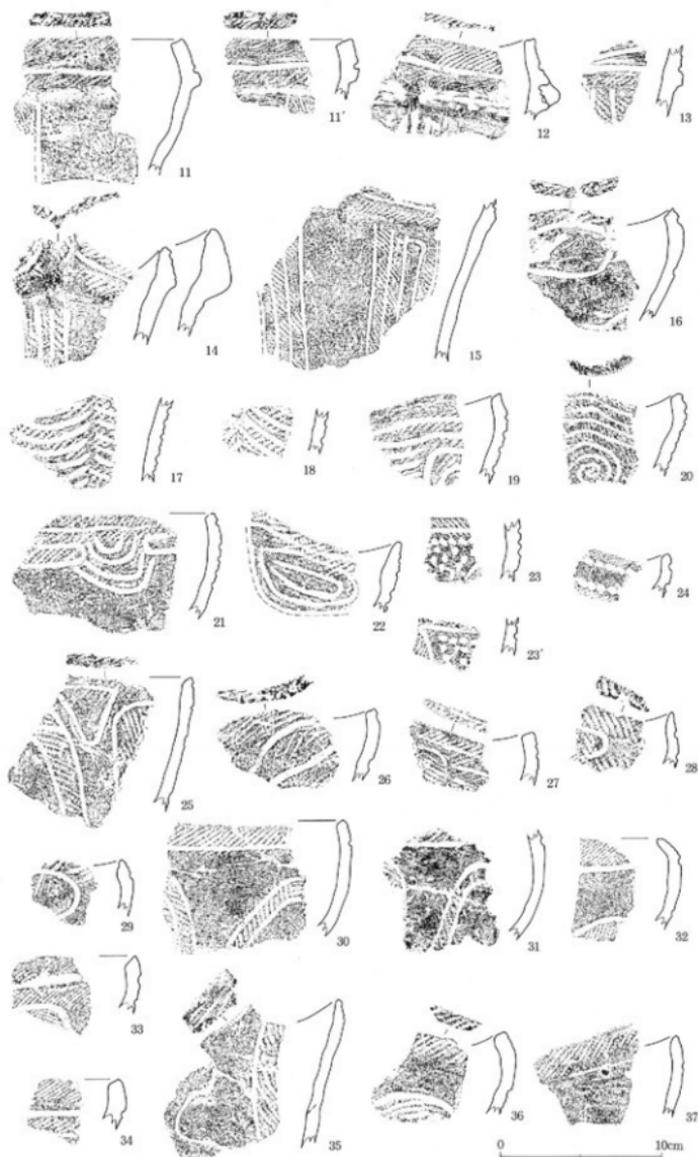
口縁下にすぐ口縁部文様帯がくる、水平口縁もしくは主文様帯が波状の深鉢。口縁部と胴部とを区分する手法で1~4類に細分され、口縁部と胴部との区分が不明瞭な土器が5類、口縁部文様帯が退化したものが6類である。

A2類(11~14)は、A1類(口縁部と胴部とを隆帯で区分し、器壁もその部分でかすかに内折して口縁部がたつ深鉢)にくらべ、口縁部と胴部とがより直線的につながる深鉢である。口縁部文様は、楕円形区画文の可能性をもつもの(12・13)、直線文(11・14)がある。(12)は突起の両側に押引沈線が施文され、これを囲む部分が低い隆帯による楕円形区画ともみられるが、口縁部の肥厚が直線文の上下で連続する一方、口縁部と胴部を区分する隆帯はあきらかであることから、B類ではなくA2類にふくめた。胴部文様は、L字形の沈線(11)、垂下沈線(12~14)であり、沈線間にLR縦位縄文を施文する(11・13・14)。

A3類(15)は、口縁部と胴部との境が屈曲する深鉢である。口縁部文様は、端部を欠くため不明瞭であるが、直線文であろうか。胴部文様は、コ字形の垂下沈線の両脇に2条の垂下沈線を施し、その間にLR縦位縄文を施文する。

A4類(16~18)は、口縁部と胴部とを多重沈線による連弧文で区分する深鉢である。(16)は、湾曲する口縁部のやや面をもつ部分に楕円形区画文を施文し、口縁部と胴部とをゆるやかな波状文で区分する。

A5類(19~25)は、口縁部と胴部とが文様帯の相異だけで区分される深鉢である。口縁部文様は、渦巻文(19~21)と区画文(22~24)がある。渦巻文は、渦巻文(19・20)と渦巻文が退化した多重沈線文(21)がある。(19~21)は、渦巻文という点では、A1類d(主文様が渦巻文で、そのまわりを隆帯がかこむ土器)またはA4類(主文様が渦巻文である場合が多い)にふくまれる可能性があるが、隆帯があきらかではなく、また、口縁部と胴部間の文様が不明のためA5類とした。区画文は、2本の曲線文(22)、刺突文(23)を充填するもの、無文(24・25)がある。(25)は、口縁部文様と胴部文様が入り組んでおり、A6類との



第11圖 SBI出土遺物実測図(3)

中間に位置づけられる。

A6類は、口縁部文様帯を消失した深鉢である。本資料では、A5類とA6類の区別が不明瞭であるため、A5・6類(26~37)とした。口縁部文様は、曲線文で区画文になる可能性があるもの(26~29)、直線文(30~34)、縄文(35~37)がある。(26)は、(16)と同一個体になる可能性があるが、胴部文様が不明のためA5・6類とした。(30)と(31)は同一個体になる可能性があり、胴部文様は波状文になると考えられる。(32)はLR縄文の粒が小さい磨消縄文であり、A6類に近い。(35~37)は山形口縁である。(35・36)は胴部文様があきらかであることからA5類に近いと考えられる。

深鉢B類 [深鉢B類] (38・39)

口縁部から1段下がったところに隆帯で楕円形区画文を横につらねた文様を施す深鉢。この類のほとんどは、口縁部下が無文になるか縄文だけを施す。(38・39)は隆帯上にRL縄文を施す。細片のため楕円形区画文のつなぎ部は不明である。

深鉢C類 [深鉢C類] (40~43)

突起状山形口縁をもつ、胴部がきつくくびれた深鉢。口縁部の文様から3類に細分される。

C2類(40)は、口縁部に1本沈線を施す深鉢。

C3類(41~43)は、口縁部文様が省略された深鉢。口縁部は、LR縄文を施すもの(41・43)と無文のもの(42)がある。

深鉢D類 [深鉢D類] (44~46)

縄文だけで器面を飾る深鉢。

D2類は口縁部が肥厚する深鉢で、口縁部に横位縄文、胴部に縦位縄文を施す(45・46)。

(44)はやや山形口縁であり、口縁部に2段のLR横位縄文を施す。

深鉢E類 [深鉢E類] (47)

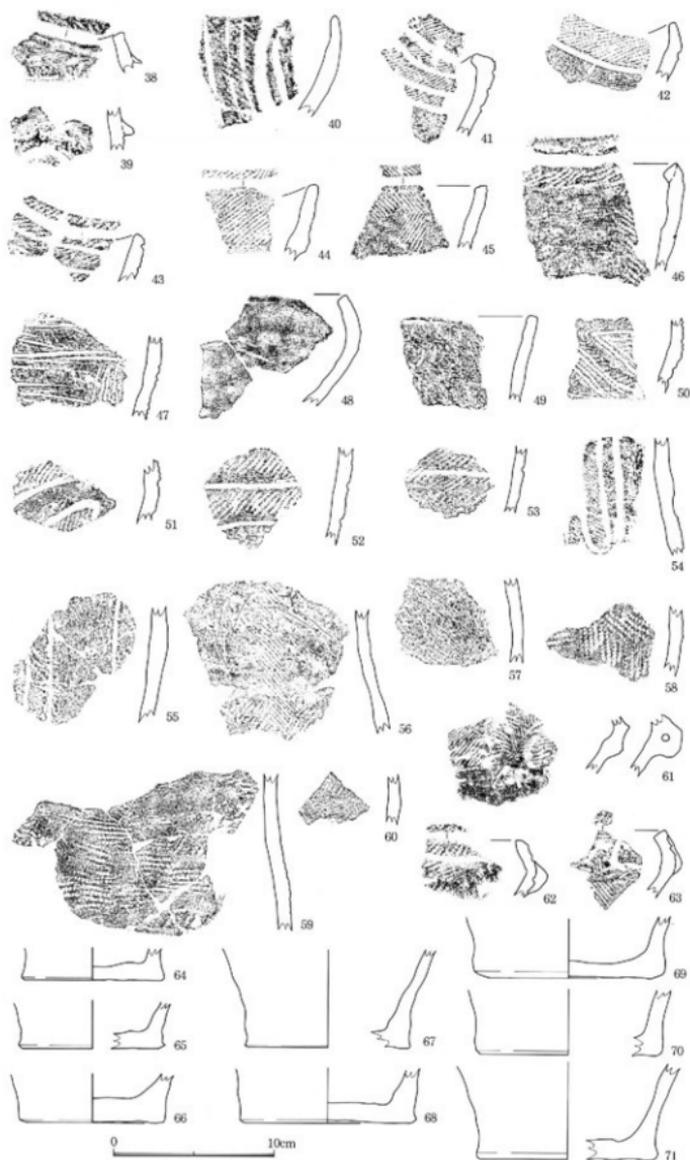
櫛描条線だけで器面を飾る深鉢。(47)の櫛描条線は、3~4本がまとまって描かれるが、平行するものではなく、線の幅が2~3mmを測るため、ヘラ状の原体による施文の可能性がある。

深鉢F類 [深鉢F類] (48・49)

無文の深鉢。丁寧なミガキ(48)、粗いナデ(49)で調整される。

深鉢頸部 (2) 深鉢頸部(第12図、図版6)

(50)は、2~4本沈線による区画文の間に隆帯がみられ、深鉢A1類にふくまれる可能性がある。(51)は端部を欠くが、口縁部になる可能性がある。(51~53)は、沈線とLR縄文が施文されるのみであるが、深鉢A5類にふくまれる可能性が考えられる。



第12圖 SB1 出土遺物実測図(4)

## 深鉢胴部 (3) 深鉢胴部(第12図、図版6)

曲線的な文様のある破片(54)、垂下沈線のある破片(55)、縦位縄文のある破片(56・57)、縄文を不定方向に施す破片(58・59)、特異な縄文を施す破片(60)がある。(54)は、U字形の区画文の両脇に垂下沈線を施す。(55)は垂下沈線間にLR縄文を施す。(56・57)はLR縦位縄文である。(56)は下部にLR横位縄文がある。(57)は縄文の深い押圧と浅い押圧が交互にみられる。(58)はRL縄文、(59)はLR縄文である。(60)はLR縄文の下に浅いU字形の縄文がみられ、結縄文の可能性が考えられるが、小片のため明確ではない。

## 浅鉢 (4) 浅鉢(第12図、図版6)

口縁部がく字形に内折した浅鉢で、浅鉢A類(口縁部が有文)と浅鉢B類(口縁部が無文)がある。本資料は、浅鉢A類と浅鉢B類の区別が不明瞭であるため、浅鉢A・B類(61～63)とした。(61)は幅の狭い口縁部の上下がやや肥厚し、突起を横方向に穿孔して橋状把手状にした浅鉢である。口縁部にはLR縄文が施文される。(62)は口縁部に直線文、突起の両脇に沈線が施文される。突起の両脇の沈線は区画文の退化したものであろうか。(63)は縦方向隆帯の両脇に押しき沈線による区画文が施文される。

## 底部 (5) 底部(第12図、図版6)

底面直径は8～9cm(64～66)、10～12cm(67～71)を測り、ほとんどが深鉢の底部と考えられる。底面からほぼ直角にちちあがり、底面から直線的なものもあるが(64)、底面直上できびれる後期的なもの(65～71)が多い。

掲載した土器片以外をふくめ、SB1出土土器全体で器種分類可能な破片を対象に器種別個体数を数えると、深鉢A1類3点、深鉢A2類6点、深鉢A3類1点、深鉢A4類13点、深鉢A5類10点、深鉢A5・6類25点、深鉢B類2点、深鉢C2類1点、深鉢C3類4点、深鉢D2類6点、深鉢E類1点、深鉢F類4点、浅鉢A・B類4点であり、深鉢胴部片では、曲線的な文様のある破片3点、垂下沈線のある破片20点、縦位縄文のある破片23点、縄文を不定方向に施す破片2点、特異な縄文を施す破片1点である。これをもとに比率で示すと、深鉢96%、浅鉢4%であり、深鉢ではA類73%、B類2%、C類6%、D類8%である。深鉢A類のなかでもA1類、A5類およびA5・6類が多く、深鉢全体のなかでA4類が16%、A5類およびA5・6類が44%をしめる。D類は8%であるが、深鉢胴部片中縦位縄文のある破片が23点と多いことから、縦位縄文のある破片は深鉢A4類星田式の胴部になる可能性も残すが、D類の比率はいま少し高くなる可能性がある。

縄文の燃りは型式分類可能な破片中、LRが96%、RLが4%であり、RLは深鉢A5・6類および深鉢D類にみられる。

本資料は、細片が多く、接合資料も多くないことから、住居廃絶後に一括廃棄された土

器である可能性が高い。

器種分類からは、深鉢B類、C類が少なく、中津式に近い深鉢A5・6類およびD類が多いことから、北白川C式のなかでも、新しい段階である北白川C式4期に相当すると考える。河内長野市内では三日市遺跡から同期の土器が出土している。

大阪府下では、東大阪市馬場川遺跡O地点、恩智遺跡、大阪市森の宮遺跡、豊中市野畑遺跡、枚方市星田遺跡、堺市西浦橋遺跡、小阪遺跡、和泉市仏並遺跡などで、北白川C式～中津式の土器が出土している。以前これらを検討するなかで、北白川C式のなかでも、星田遺跡・野畑遺跡第5層→野畑遺跡第4層→小阪遺跡の変遷を考えたことがある。SB1出土土器は、小阪遺跡出土土器とほぼ同時期と考えられるが、深鉢A5・6類が多く、深鉢C類が少ない点からは、小阪遺跡出土土器よりもやや新しくなる可能性が考えられる。

本資料は破片が多い資料ではあるが、器種組成に富み、廃棄された土器である可能性が高いものの一括性がみとめられることから、大阪府下の縄文時代中期末葉（北白川C式）の土器を考えるにあたり、新たな資料を提供するものとする。（この項 合田）

(註1) 泉拓良・家根祥多・森本晋・玉田芳美1985「第3章遺物」『京都大学埋蔵文化財調査報告—北白川追分町縄文遺跡の調査—』京都大学埋蔵文化財研究センター

(註2) 合田幸美1992「北白川C式土器について—小阪遺跡出土土器を中心として—」『小阪遺跡本報告書—近畿自動車道松原海南線および府道松原泉大津線建設に伴う発掘調査』動大版文化財センター

#### 4 まとめ

宮山遺跡はおそらく数棟単位の住居で構成される小さなムラと考えられる。このムラの立地する地形は標高135mの段丘上で、段丘のフラットな面が幅150m、長さ200mである。西側の石川までの比高が15m、後背の台地の頂部との比高は約70mである。このような立地条件は、三日市遺跡や向野遺跡・喜多町遺跡・小塩遺跡と同じである。また西方6kmに位置する和泉市仏並遺跡も同条件である。このような土地では、川や段丘上の低灌木地帯、そして後背の森林地帯が変化に富んだ動植物相を呈し、狩猟・漁猟・採集を生業とした縄文人には、住環境として理想的なものであろう。

縄文時代中期の竪穴住居の検出例としては市内で最初のものであり、また大阪府内でもその数は多くないが、仏並遺跡で同時期の竪穴住居が検出されている。宮山遺跡の竪穴住居は、4つの深さ0.3m以上のピットを主柱穴にして、中央に炉跡があり、壁の周囲に溝を巡らしている。また、住居の壁の直上周囲には11カ所のピットがある。仏並遺跡の354-O Dの竪穴住居も隅丸方形で四本柱の構造である。しかし宮山遺跡の住居に比べ床面積が3/4程度と小さく、周溝も巡っていない。

また、和同開珎の出土も本市では最初であり、この周辺に奈良時代の遺構が存在する可能性を示唆している

(尾谷)

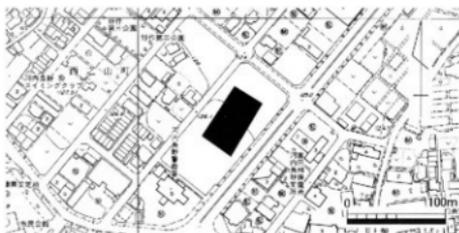
## 第2節 西之山町遺跡 (NYC90-1)

## 1 概略

遺跡は、当該地に大規模商業施設が建設されることになり、市教育委員会の事前の試掘調査で平成2年に発見されたものである。その後、建設が本格的に進められることになり、市教育委員会は本調査を実施する必要がある旨、原因者である有限会社雷に回答した。これを受けて有限会社雷は、市教育委員会の指導のもとに平成2年10月15日、河内長野市遺跡調査会と委託契約を締結した。調査期間は平成2年10月16日～平成3年3月29日、調査面積は約1000㎡であった。遺跡は河内長野市西之山町に所在し、標高約120mを測る中段丘上に位置する。

## 2 層序

遺跡の埋没深度が、市内の遺跡としては深く約1mを測る。層順は上層から盛土(層厚約0.75m)、耕土(層厚約0.2m)、細砂が多く混じる耕土(層厚約0.1m)、オリブ黄色シルト混じり細砂(層厚約0.1m)、黄灰色礫混じりシルト(層厚約0.1m)が基本となっている。



第13図 調査区位置図(1/5000)



第14図 遺構配置図(1/300)

## 3 遺構と遺物

## (1) 溝

[SD 1]

SD 1

調査区の南西側に位置する。検出長約6mで北西から南東方向に直線的に走る。北西端でSD 2と直交する。最大幅0.6mで深さ約0.3mを測る。

遺物は出土しなかった。

[SD 2]

SD 2

調査区の南西側に位置する。検出長約17.2mで北東から南西方向に直線的に走る。南西端から7mのところまでSD 1と直交する。最大幅0.6mで深さ約0.2mを測る。

遺物は出土しなかった。

[SD 3]

SD 3

調査区の西側に位置する。検出長約19mでやや西に振りながらほぼ南北に直線的に走る。最大幅0.6mで深さ約0.2mを測る。

遺物は出土しなかった。

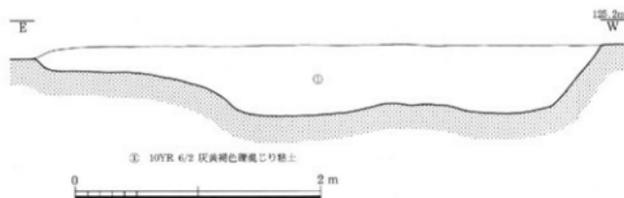
## (2) 土坑

[SK 1] (第15・16図、図版8)

SK 1

調査区の西側隅に位置する。平面形は楕円形を呈するようであるが、西側は調査区外に広がる。検出最大幅5.5mで、深さは0.6mを測る。埋土は灰黄褐色礫混じり粘土の一層である。

遺物は土師質の播鉢(72)と白磁碗(73)が出土している。



第15図 SK 1 遺構断面実測図(1/40)

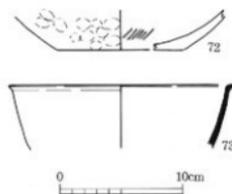
## (3) 遺物出土ピット

[SP 1] (第17図、図版8)

SP 1

調査区の中央西より付近、SD 3の中央東側に接する位置で検出された。径0.3m、深さ0.2mを測るピットである。

埋土から土師質皿(74)が出土している。



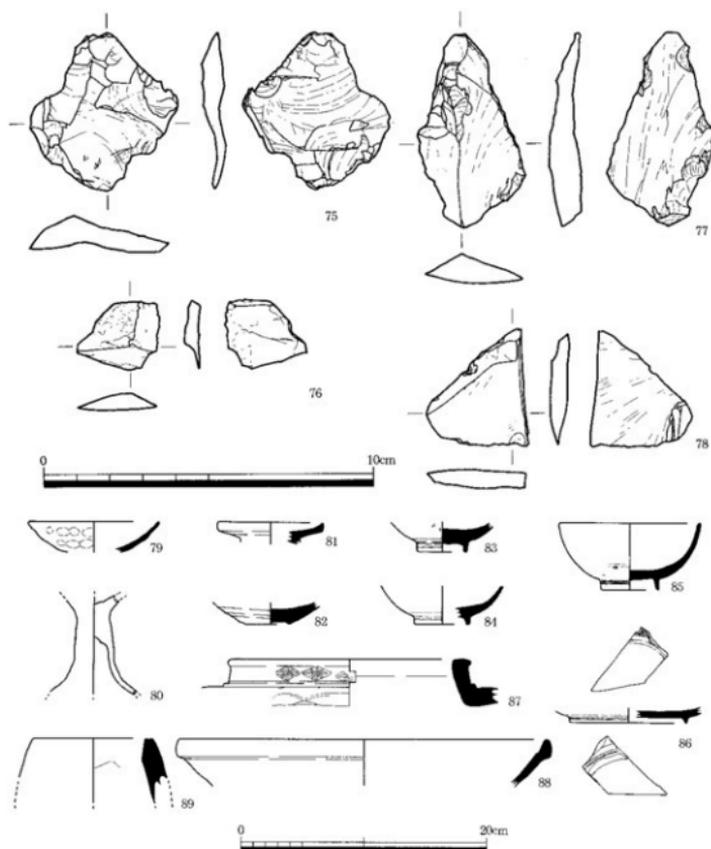
第16図 SK 1 出土遺物実測図

包含層 (4) 包含層(第18図、図版8)

出土遺物は細片が多く、実測可能な遺物は少なかった。サヌカイト剥片が4点(75~78)、奈良時代の土師器高坏脚部(80)、焼成不良の瓦器塊(79)、瓦質火鉢(87)、須恵質練鉢(88)、唐津の碗(82)、肥前系の染付碗(83~85)・皿(86)、ふいごの羽口(89)が図化できた。



第17図 SP1出土遺物実測図



第18図 包含層出土遺物実測図

4 まとめ

当該遺跡の立地場所は、埋没深度も深く市内の遺跡としては希少な低湿地の様相を呈している。現況地形図から見ると、遺跡の南西約1.5kmに位置する上原町所在の今池を谷奥

とする埋没谷が、北東約0.5kmに位置する大池（現市役所庁舎）付近まで連続している。この谷の一部に当遺跡が該当するようである。

昭栄町・西之山町・寿町などでは、概に区画整理事業が完了しており、遺跡の存在が疑問視されていた。しかし、調査の結果、区画整理事業ではこの地域の大部分が盛土工法で実施されていることが判明した。当遺跡の存在は、他にも遺跡が埋没している可能性を示唆するものである。

（尾谷）

### 第3節 岩湧寺遺跡 (IWT92-1)

#### 1 概略

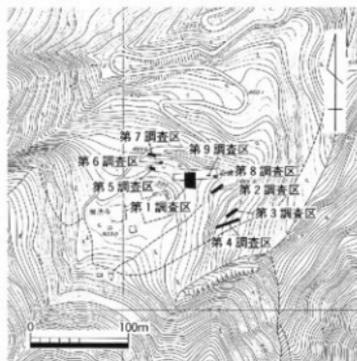
調査地は、金剛・葛城山系のひとつ岩湧山(標高897.7m)の北東側約1km付近、標高500mの中腹に位置する湧出山岩湧寺の境内である。

この境内を含む一帯で、大阪府により岩湧山森林活動拠点整備事業が実施されることとなった。

特に、現伽藍北側の旧ユースホテル跡地にセンターハウス(現四季彩館)が建設されることになり、旧伽藍遺構の存在が予想されることから発掘調査が必要となった。

また、整備事業地内の岩湧寺伽藍周辺のテラス状の平坦地についても僧坊跡の可能性が考えられるため発掘調査を実施した。

調査期間は平成4年7月20日から平成4年8月21日まで、調査面積は、地形に合わせて調査坑を9カ所設定したため合計で約310㎡である。



第19図 調査区位置図(1/5000)

#### 2 遺構と遺物

##### 第1調査区 (1) 第1調査区(第20図、図版9)

岩湧寺の庫裏の北東側に位置するテラス状の尾根に東西10m、南北16mの調査坑を設定した。

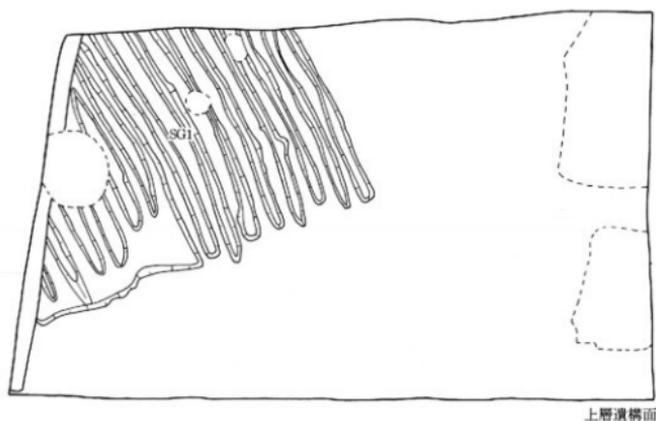
層序は、上層から表土(層厚約0.1m)、炭化物層(層厚約0.05m)、黄褐色礫混じり粘土(層厚約0.15m)、褐色礫混じり粘土(層厚約0.3m)、黄褐色礫混じり粘土(層厚約0.2m)、褐色礫混じり粘土(層厚約0.2m)、明褐色礫混じり粘土(層厚約0.2m)、地山は明褐色シルト質粘土である。

遺構面は黄褐色礫混じり粘土と褐色礫混じり粘土上面の2層が確認されている。SG1以外は下層からの検出である。

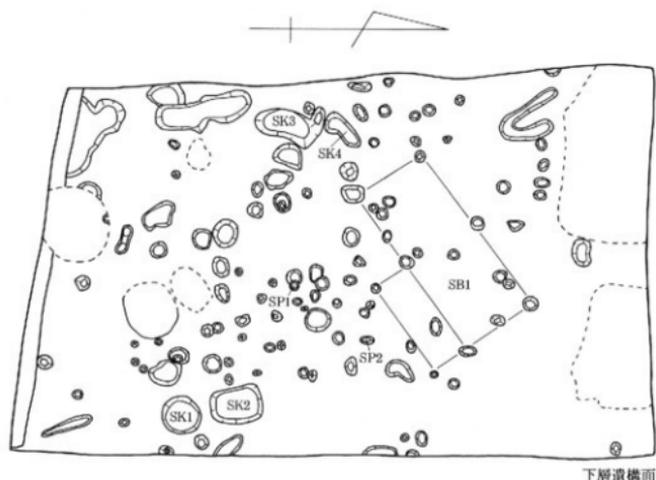
##### 耕作地

##### SG1 [SG1] (第20・21図、図版9)

この遺構は上層から検出され、調査区の北西側約1/3を占める畝状の遺構である。検出面積は約40㎡で、畝の幅は約0.3m、高さ約0.15m、間隔約0.3mを測る。方向はN-



上層遺構面



下層遺構面



第20図 第1調査区遺構配置図(1/125)

65°-Eを測る。

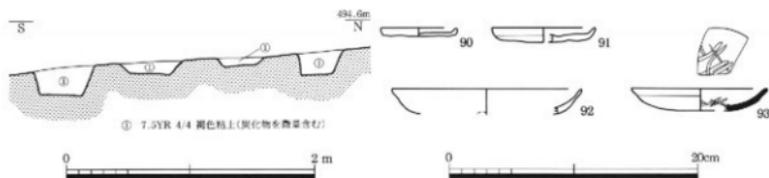
遺物は土師質の皿(90~92)、瓦器塊(93)が実測できた。

#### 掘立柱建物

[SB1] (第22図、図版9)

調査区の北側で検出された桁行2間(約4.7m)×梁行1間(約2m)の片面庇の建物であ

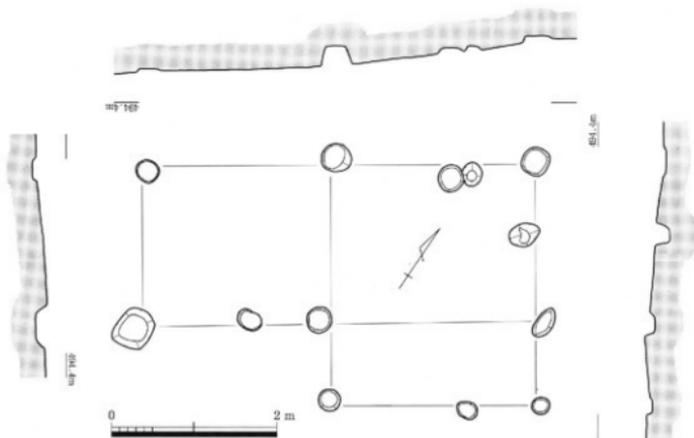
SB1



第21図 SG 1 遺構断面実測図(1/40)・出土遺物実測図

る。主軸方向はN-52°-E、柱間は桁行2.4m、2.3m、梁行2mで柱穴は径0.5m~0.3m、深さ0.2m~0.05mを測る。底は南西側に1m張り出している。

実測可能な遺物は出土しなかった。



第22図 SB 1 遺構断面実測図(1/60)

土坑

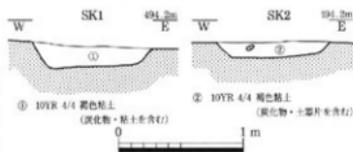
SK 1 [SK 1] (第23・24図)

調査区の南東側で検出された平面形が円形の土坑である。規模は径1.06m、深さ0.16mを測った。遺構の埋土は炭化物を含む褐色粘土が堆積していた。

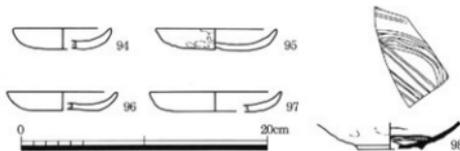
遺物は瓦器坑(98)が実測できた。

SK 2 [SK 2] (第23・24図)

SK 1の北側1mで検出された平面形が隅丸方形の



第23図 SK 1・2 遺構断面実測図(1/40)



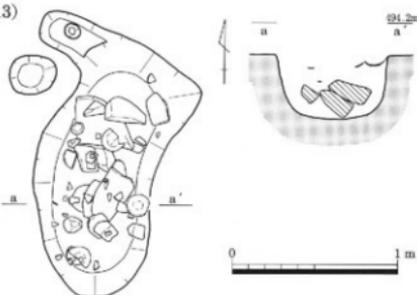
第24図 SK 1・2 出土遺物実測図

土坑である。規模は長軸1.3m、短軸0.9m、深さ0.1m、主軸方向はN-12°-Wを測る。遺構の埋土は炭化物を含む褐色粘土が堆積していた。

遺物は土師質皿(94~97)が出土した。

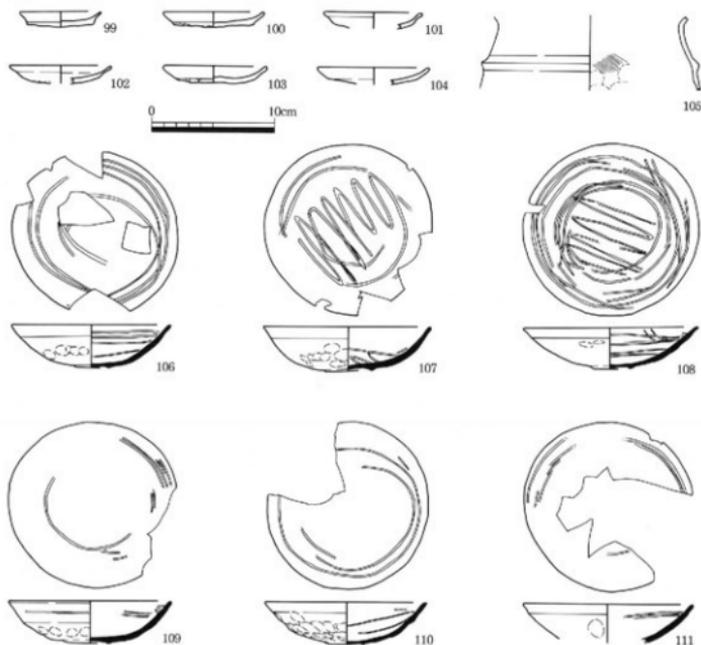
[SK3] (第25~27図、図版10・13)

SK2の西側7mで検出された平面形が不整形の上坑である。規模は長径2.1m、短径0.98m、深さ0.35m、主軸方向はN-15°-Eを測る。遺構の埋土は炭化物を含む褐色粘土が堆積していた。土坑内から最大50cm×30cm×30cmを測る8個の川原石とともに土師質土器・瓦器が出土した。

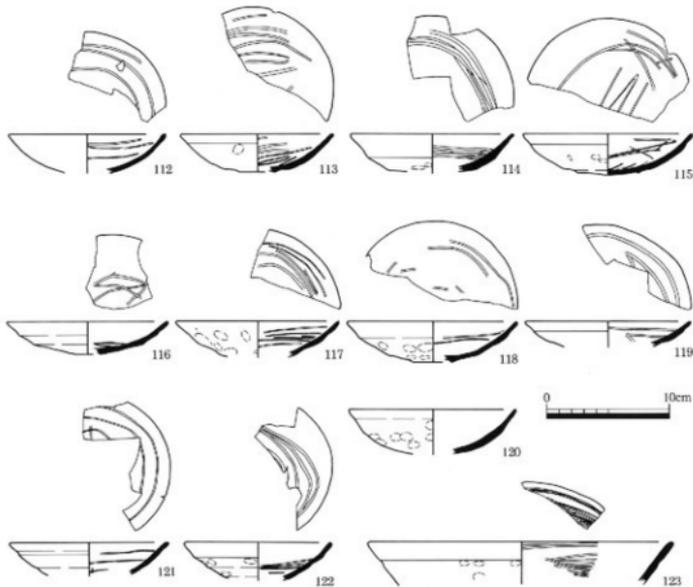


第25図 SK3 遺構実測図(1/30)

遺物は土師質皿(99~104)、紀伊系土釜(105)、瓦器塊(106~123)が実測することができた。



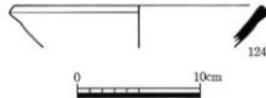
第26図 SK3 出土遺物実測図(1)



第27図 SK 3 出土遺物実測図(2)

SK 4 [SK 4] (第28図)

SK 3の北側に接するように検出された平面形が長楕円形の土坑である。規模は長径1.14m、短径0.33m、深さ0.8m、主軸方向はN-44°-Eを測った。

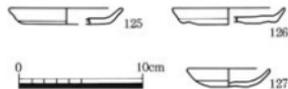


遺物は須恵質の練鉢(124)を実測することができた。 第28図 SK 4 出土遺物実測図

遺物出土ピット

SP 1 [SP 1] (第29図)

SK 2の北西側2.5mで検出された、平面形が円形のピットである。規模は径0.21m、深さ0.12mを測った。



遺物は土師質皿(125)が実測することができた。 第29図 SP 1・2 出土遺物実測図

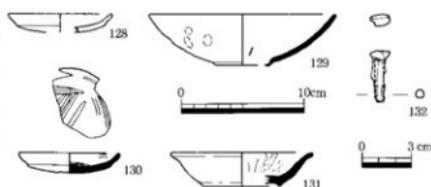
SP 2 [SP 2] (第29図、図版13)

SB 1の南側1mで検出された平面形が楕円形のピットである。規模は長径0.31m、短径0.33m、深さ0.09mを測る。

遺物は土師質皿(126・127)を実測することができた。

## 包含層(第30図、図版13)

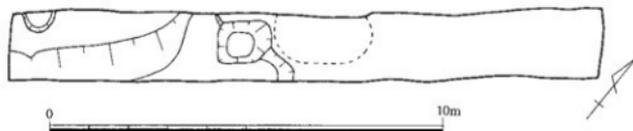
褐色粘土の包含層で瓦器、土師質土器、磁器などが出土した。うち、実測できたのは土師質皿(128)瓦器瑤(129)・皿(130)、青磁皿(131)、鉄釘(132)である。



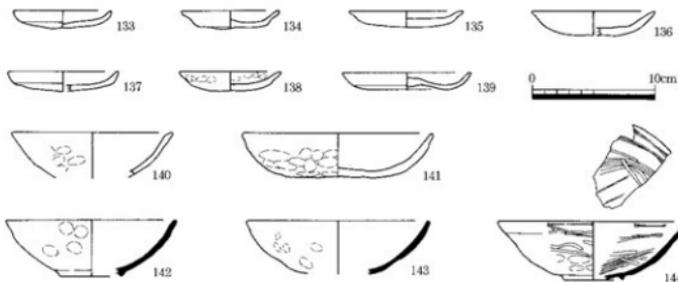
第30図 包含層出土遺物実測図

## (2) 第2調査区(第31・32図、図版10・13)

第2調査区



第31図 第2調査区遺構配置図(1/125)



第32図 包含層出土遺物実測図

第1調査区の東側に位置し、寺の南側谷の標高約489mを測る緩斜面地に等高線に平行するように東西15m、幅2mの調査坑を設定した。

基本層序は、8層より上層から表土(層厚約0.1m)、旧表土(層厚約0.2m)、浅黄色シルト(層厚約0.1m)、浅黄色シルト(層厚約0.3m)、黄褐色シルト(層厚約0.2m)、浅黄色シルトと地山のブロック土(層厚約0.2m)、オリーブ褐色シルト(層厚約0.2m)、オリーブ褐色シルトと地山のブロック土(層厚約0.2m)、地山の明褐色シルト質粘土である。

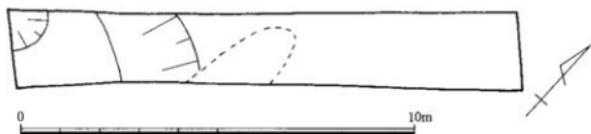
明確な遺構はなく、ピット状の遺構が2カ所確認されただけである。

遺物は包含層となる淡褐色粘質土から出土した。実測できたのは土師質皿(133~139)・杯(140・141)、瓦器瑤(142~144)である。

## (3) 第3調査区(第33図、図版11)

第3調査区

第2調査区の南側に位置する標高477mの谷の中腹のテラスに、等高線と平行するように東西12.3m、幅2mの調査坑を設定した。



第33図 第3調査区遺構配置図(1/125)

基本層序は、上層から表土(層厚約0.3m)、オリーブ黒色礫混じり粘土(層厚約0.1m)、炭化物層(層厚約0.2m)、褐色礫混じり粘土(層厚約0.2m)、にぶい黄褐色礫混じり粘土(層厚約0.2m)、褐色礫混じり粘土(層厚約0.2m)、黄褐色粘土混じり礫(層厚約0.2m)、地山の明褐色シルト質粘土である。

明確な遺構、遺物は検出されなかったが、谷地形-谷の落ちの一端が検出された。

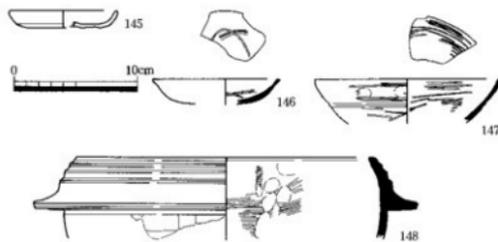
第4調査区 (4) 第4調査区(第34・35図、図版11・13)

第3調査区より一段下がった南側谷のテラスに位置し、標高476mを測る。等高線に直交するように東西20m、幅2mの調査坑を設定した。

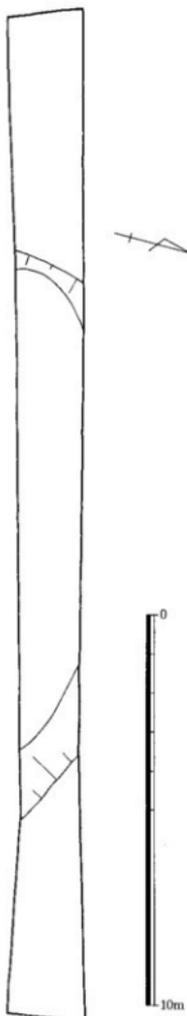
基本層序は、上層から表土(層厚約0.5m)、暗褐色礫混じり粘土(層厚約0.4m)、淡褐灰色礫混じり細砂(層厚約0.4m)、旧表土(層厚約0.2m)、褐色礫混じり粘土(層厚約0.3m)、褐色礫・炭混じり粘土(層厚約0.3m)、暗褐色礫混じり粘土(層厚約0.1m)、地山の明褐色シルト質粘土である。

明確な遺構はなく、南側に落ちる谷地形の一部が検出された。

遺物は土師質皿(145)、瓦器塊(146・147)、瓦質土釜(148)が実測できた。



第35図 包含層出土遺物実測図



第34図 第4調査区遺構配置図(1/125)

## (5) 第5調査区

第5調査区

庫裏の北側、寺の北側谷のテラスに位置し、標高497mを測る。等高線に平行するように東西4.8m、幅2.4mの調査坑を設定した。

基本層序は、2層あり上層から表土(層厚約0.1m)、にぶい黄褐色礫混じりシルト(層厚約0.2m)、地山の明褐色粘質土である。

明確な遺構・遺物はなく、北側に落ちる谷地形の一部が検出されただけである。

## (6) 第6調査区(第36図、図版12)

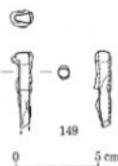
第6調査区

第5調査区の北側、一段下がった北側谷のテラスに位置し、標高495mを測る。等高線に平行するように東西3.2m、幅2.4mの調査坑を設定した。

基本層序は、3層あり上層から表土(層厚約0.2m)、暗灰黄色シルト(層厚約0.15m)、にぶい黄褐色礫混じりシルト(層厚約0.5m)、地山の明褐色粘質土である。

明確な遺構はなく、北側に落ちる谷地形の一部と平坦面が検出されただけである。

遺物は土師質土器、瓦質土器、陶磁器、瓦が出土したが鉄釘(149)が実測できた。

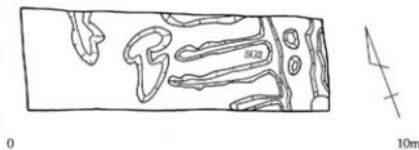


第36図 包含層出土遺物実測図

## (7) 第7調査区(第37図、図版12)

第7調査区

第6調査区の北側、さらに一段下がった北側谷のテラスに位置し、標高494mを測る。等高線に平行するように幅2.7m、東西7.6mの調査坑を設定した。



第37図 第7調査区遺構配置図(1/125)

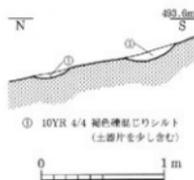
基本層序は、5層あり上層から表土(層厚約0.1m)、にぶい黄褐色礫混じりシルト(層厚約0.1m)、暗褐色礫混じりシルト(層厚約0.15m)、褐色礫混じりシルト(層厚約0.3m)、暗褐色礫混じりシルト(層厚約0.15m)、地山の明褐色粘質土である。

## 耕作地

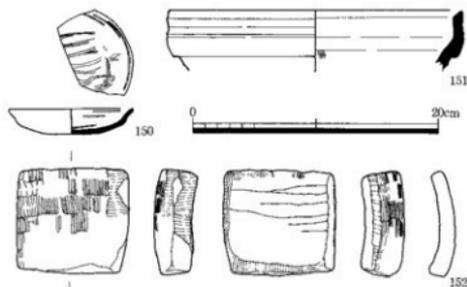
[SG2] (第37~39図、図版13)

調査区の東側約1/2を占める畝状の遺構である。検出面積は約10m<sup>2</sup>で、畝の幅は約0.5m、高さ約0.09m、間隔約0.4mを測る。方向はN-72°-Eを測る。

遺物は暗褐色礫混じりシルトから瓦器皿(150)、備前播鉢(151)、滑石製石鍋を転用した温石(152)が出土した。



第38図 SG2遺構断面実測図(1/40)



第39図 SG 2 出土遺物実測図

### 3 まとめ

調査の目的は、調査地が湧出山岩湧寺の旧境内に含まれるため寺院関係の遺構の存在を予想したためである。

この寺院は、役小角を開基としている。建物は本堂が江戸時代初期、2層の多宝塔は天文年間のものである。また、多宝塔本尊は重要文化財に指定されている、平安時代末に造られた大日如来坐像で、同じ塔内には市指定文化財で鎌倉時代の作である受樂明王坐像がある。

そして、この寺の位置する和泉葛城山系から金剛山系にかけては、往古から葛城修験道の行場として知られたところである。寺には法華經二十八品になぞらえて選定された葛城二十八宿とよばれる修験回峯の行場の一つで、従地湧出品第15之地として経塚が設けられている。

上記の背景のもとに調査結果を考えてみたい。まず出土遺構であるが、今回の調査区を寺周囲のテラス状の平坦地に設定したのは、僧坊の存在を予想したためである。結果は、第1調査区で掘立柱建物と土器の出土を伴う土坑が検出され、この現車裏の東側には、僧坊とは断定できないが寺院建物の広がりが見られる。他のテラスは面積的にも狭く、特に北側に面したテラスは耕作地の可能性が高い。しかし、南側のテラスについては、炭化物の層、巨石や岩場存在など、何らかの宗教的行為の場である可能性が高い。

遺物は中世土器が主に出土している。第1調査区のSK 3出土の瓦器塚やその他の調査区の包含層の瓦器塚は、和泉型瓦器塚の編年Ⅳ-1あるいは2に相当すると考えられる。時代的には鎌倉時代後半である。

この時代は、当地の観心寺や金剛寺がたびたび禁制しなければならぬほど修験道が盛んになっていた。岩湧寺は前述のように、山伏開山の役小角の創建と伝えられており、早くから修験道の行場であった。この時期と前後して、当寺が興隆したと考えられる。

(尾谷)

## 第4節 膳所藩陣屋跡 (ZZH97-1)

## 1 概略

当該遺跡は、岩湧山系を水源とする石川左岸の中段段丘上に位置し、当該調査区は古野町に所在する。標高は約140mである。調査坑を2カ所設定して調査を実施した。

## 2 遺構と遺物

調査坑は、第1調査区として南北10m、幅2m、第2調査区として2m×2mを設定した。基本層序は、現地表面から表土(層厚0.05m)、7.5YR5/2灰褐色細砂混じり礫(層厚0.15m)、7.5YR6/1褐色灰色礫(層厚0.03m)であった。

溝1条、土坑7カ所、ピット5カ所を検出したが、遺物が出土したのは第1調査区のみであった。

## (1) 溝

## [SD1]

SD1は第1調査区の中央をほぼ南北に通る。溝の南北両端は調査区外に及ぶため詳細は不明である。検出された規模は、長さ4.24m、北側の幅0.04m、南側の幅0.68m、北側の深さ0.38m、南側の深さ0.1mを測る。

瓦器が出土したが、細片のため実測できなかった。

## (2) 土坑

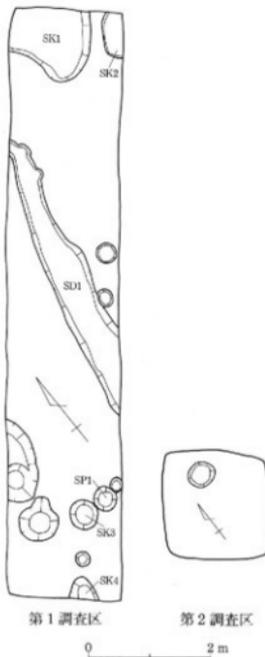
## [SK1] (第42図、図版14)

SK1は第1調査区の北隅に位置する。遺構の平面形は北側が調査区外に及ぶため、詳細は不明である。検出された規模は最大幅1.48m、深さ0.17mを測る。

出土した遺物のうち土師質の上釜(155)が実測で



第40図 調査区位置図(1/2500)



第41図 遺構配置図(1/80)

SD1

SK1

きた。

SK2 [SK2] (第42図、図版14)

SK1の南東に接して検出された。第1調査区の東隅に位置する。遺構の平面形は東側が調査区外に及ぶため、詳細は不明である。検出された規模は最大幅0.7m、深さ0.5mを測る。

赤色の泥しょうを塗布した土師質の火鉢(156)と肥前系の磁器の小碗(160)が実測できた。

SK3 [SK3]

第1調査区の南端から1.2mの所に位置する。遺構の平面形は円形を呈する。遺構の規模は径0.46m、深さ0.44mを測る。

瓦器と陶器の細片が出土したが、実測できなかった。

SK4 [SK4]

SK3の南西0.7mで、第1調査区の南端に接して検出された。遺構の平面形は南側が調査区外に及ぶため、詳細は不明である。遺構の規模は最大幅0.4m、深さ0.1mを測る。

器種不明の陶器の細片が出土したが、実測できなかった。

(3) 遺物出土ピット

SP1 [SP1]

第1調査区で、SK3の東側に近接して検出された。遺構の平面形はやや歪な円形を呈する。遺構の規模は径0.38m、深さ0.12mを測る。

器種不明の陶器の細片が出土したが、実測できなかった。

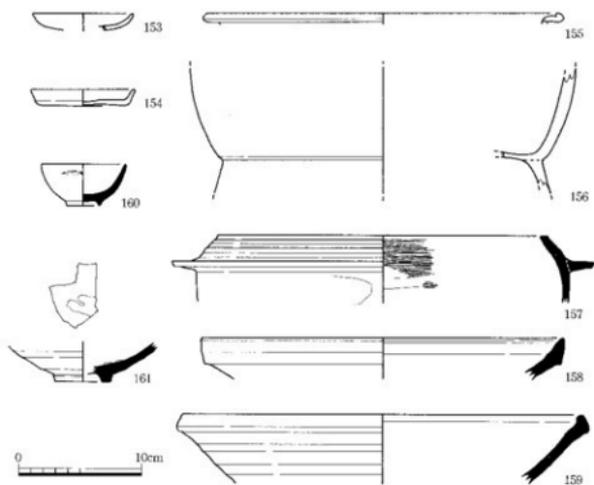
(4) 包含層(第42図、図版14)

包含層から土師質の皿(153・154)・練鉢・焙烙・火鉢・土釜、瓦質の土釜(157)、須恵質の練鉢(158・159)、堺播鉢、丹波播鉢、唐津の皿(161)、器種不明の備前、瀬戸の碗・天目碗、伊賀土鍋の蓋、不明陶器3点が出土した。

### 3 まとめ

調査の結果、調査坑が狭小であるため何ら復元できなかった。しかし、検出した遺構からは14世紀後半を上限とする生活雑器が出土したことから、集落跡を検出したものと考えられる。したがって、膳所藩陣屋が配置された慶安四年(1651)以前は集落が存在していたことがわかり、当地の変遷を知る興味深い資料が得られた。

(鳥羽)



第42図 出土遺物実測図

# 報告書抄録

ふりがな	かわちながのしまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	河内長野市埋蔵文化財調査報告書
副書名	宮山遺跡 西之山町遺跡 岩湧寺遺跡 膳所藩陣屋跡
巻次	Ⅳ
シリーズ名	河内長野市文化財調査報告書
シリーズ番号	第29輯
編著者名	尾谷雅彦 鳥羽正剛
編集機関	河内長野市教育委員会
所在地	〒586-8501 大阪府河内長野市原町396-3 TEL 0721-53-1111
発行年月日	1998年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
宮山遺跡	大阪府河内長野市高向	27216	府58 河42	34° 25' 55"	135° 33' 20"	1990. 5. 9 ) 1990. 9. 28	201m <sup>2</sup>	市立林業総合センター及び府立「花の文化園」開園に伴う周辺整備
西之山町遺跡	大阪府河内長野市西之山町	27216	府136 河99	34° 27' 07"	135° 33' 56"	1990. 10. 16 ) 1991. 3. 29	1000m <sup>2</sup>	大規模商業施設建築
岩湧寺遺跡	大阪府河内長野市加賀田	27216	府20 河17	34° 22' 40"	135° 33' 37"	1992. 7. 20 ) 1992. 8. 21	310m <sup>2</sup>	岩湧山森林活動拠点整備事業に先立つセンターハウス建築
膳所藩陣屋跡	大阪府河内長野市古野町	27216	府63 河52	34° 27' 03"	135° 34' 26"	1997. 9. 1 ) 1997. 9. 5	24m <sup>2</sup>	個人住宅新築

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
宮山遺跡	集落	縄文	竪穴住居	縄文中期の深鉢 和同開珎	市内で初めて縄文時代の住居跡を確認
西之山町遺跡	散布地	中世	溝、土坑	サヌカイト剥片 土師質土器 陶磁器	なし
岩湧寺遺跡	社寺	平安以降	掘立柱建物 耕作地	土師質土器 瓦器	現車裏の東側に寺院建物の広がりを確認
膳所藩陣屋跡	城館	江戸	溝、土坑	土師質土器 須恵質土器 陶磁器	なし

圖

版



第1調査区全景(南西から)



第2調査区全景(東から)



第3調査区全景(東から)



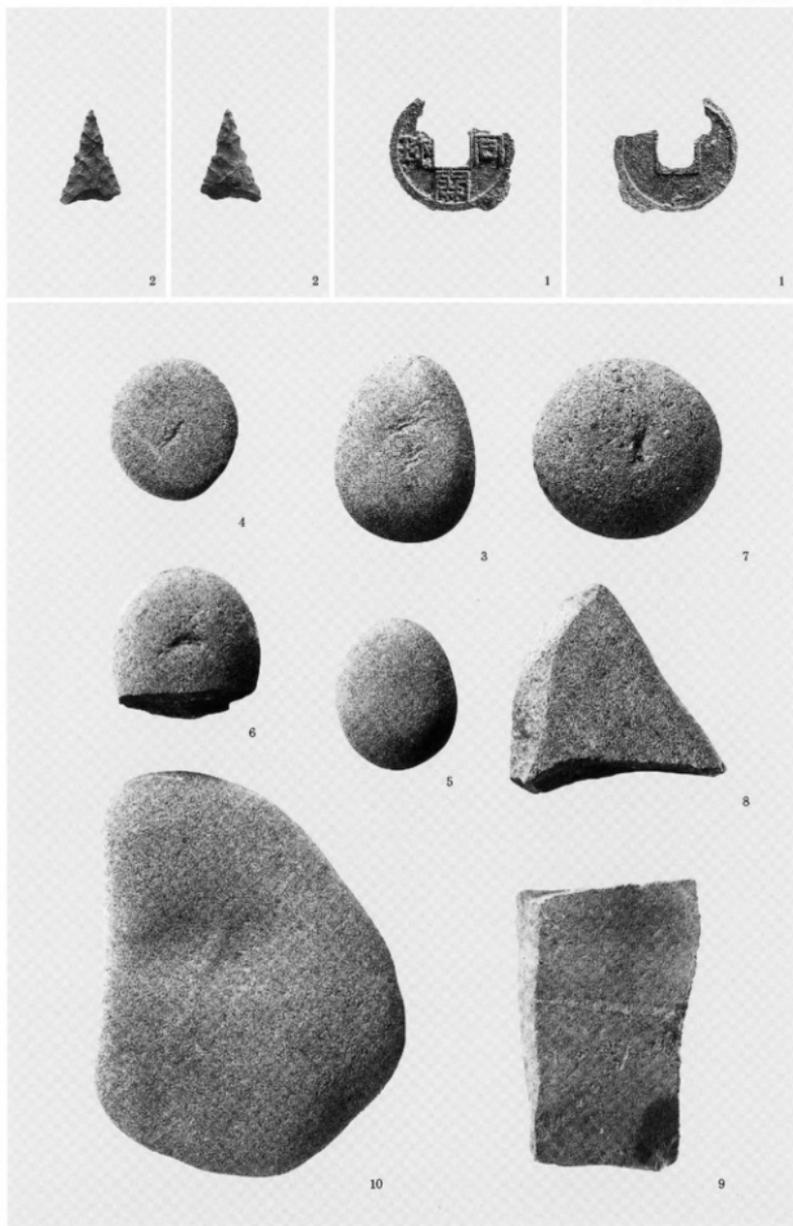
第3調査区全景(西から)



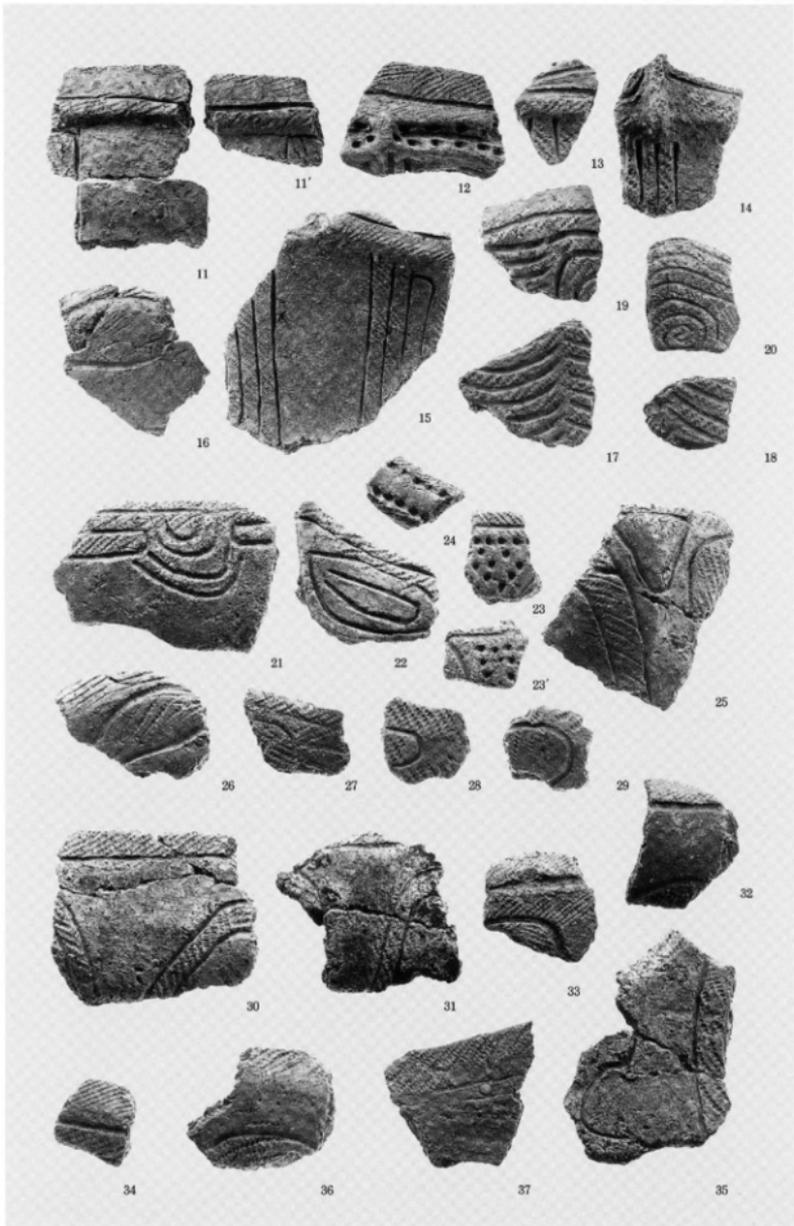
SB1(西から)



第4調査区全景(北から)



第1調査区包含層(1)、SB1(2~10)



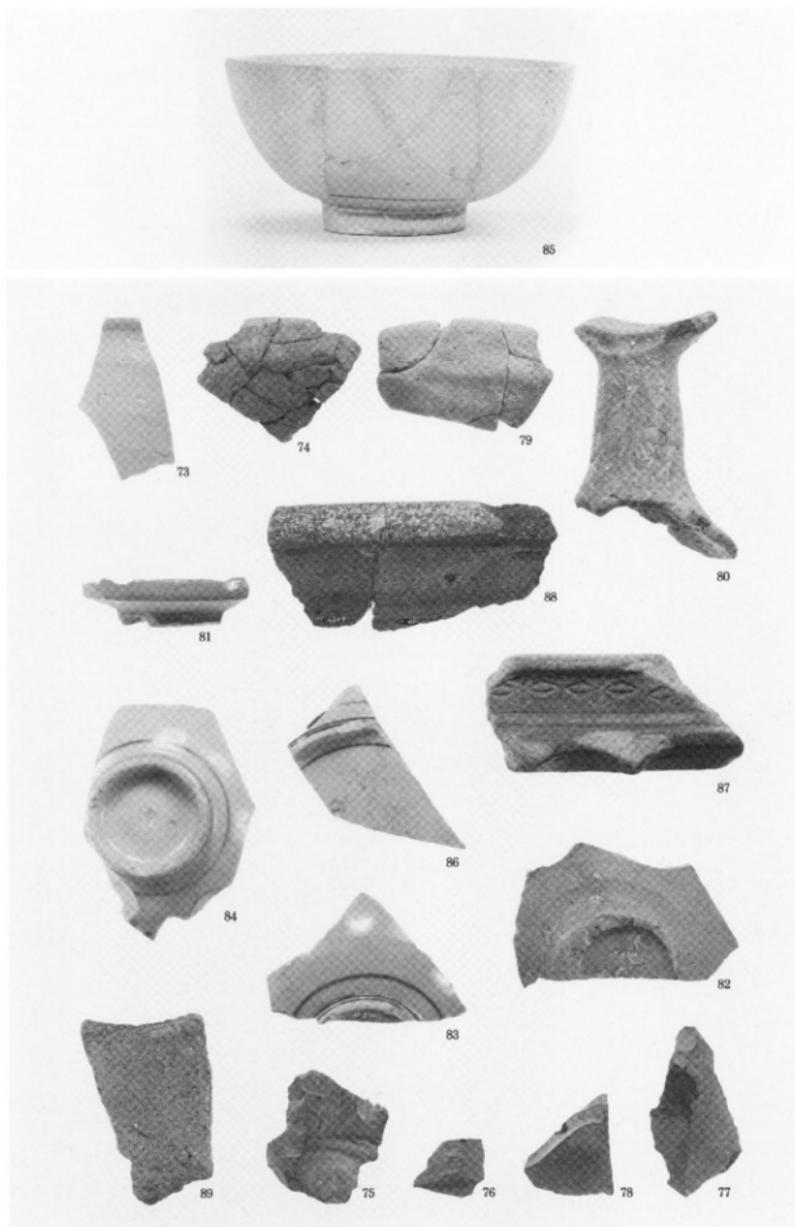




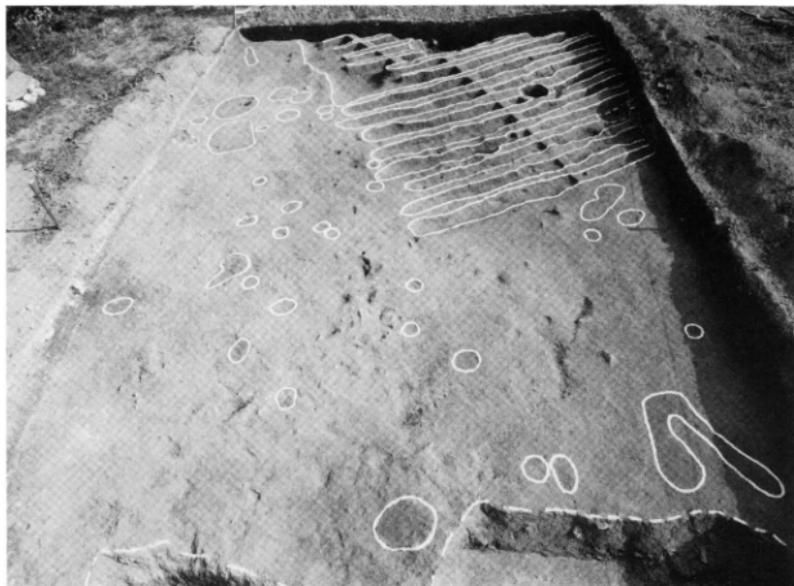
調査区全景(南西から)→



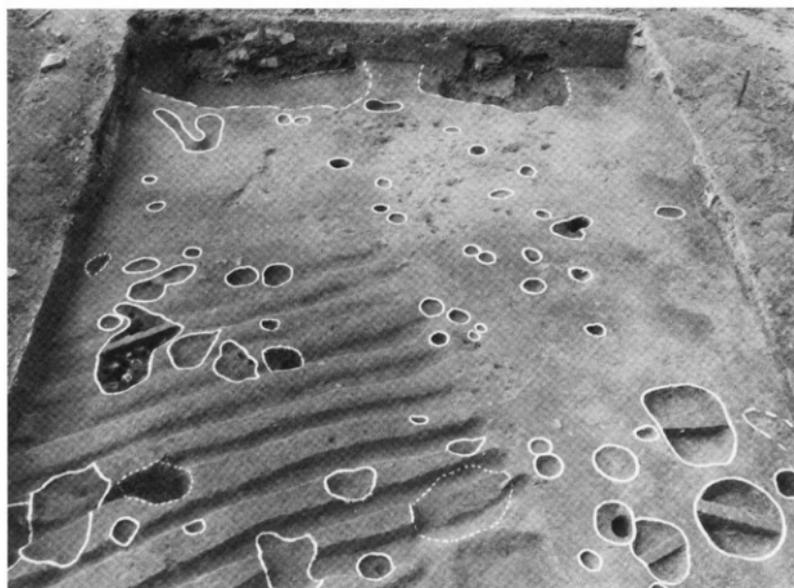
調査区全景(南東から)



SK I (73)、SP I (74)、包含層(75~89)



第1調査区上層遺構面全景(北から)



第1調査区下層遺構面全景(南から)



SK3 (南から)



第2調査区全景(南西から)



第3調査区全景(北東から)



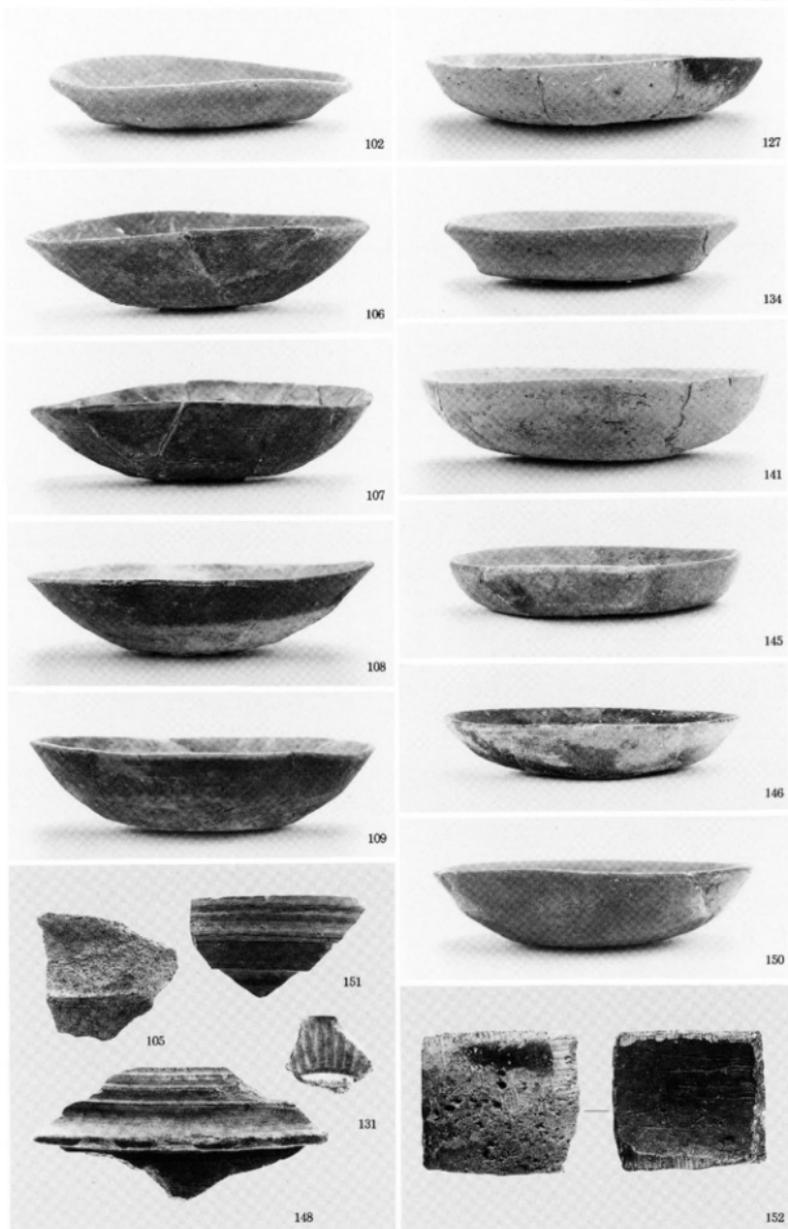
第4調査区全景(東から)



第6調査区全景(西から)



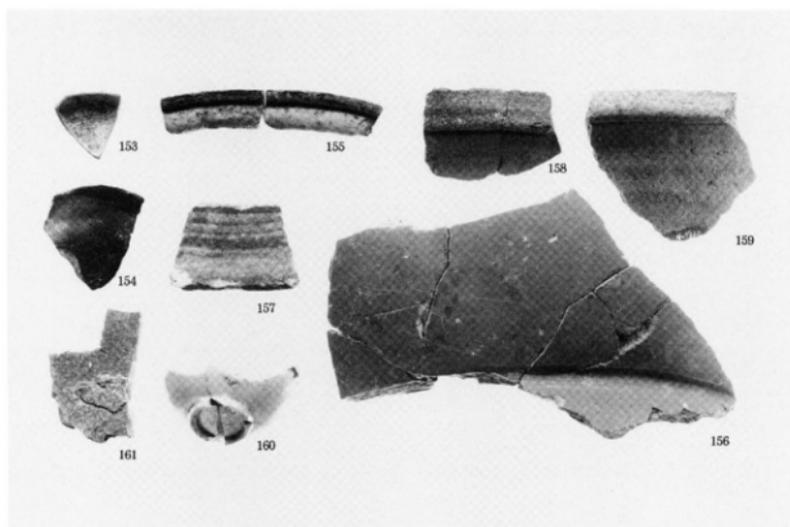
第7調査区全景(東から)



S K 3 (102・105~109)、S P 2 (127)、第1調査区包含層(131)  
 第2調査区包含層(134・141)、第4調査区包含層(145・146・148)、S G 2 (150~152)



第1調査区全景(南西から)



S K 1 (155)、S K 2 (156・160)、第1調査区包含層(153・154・157～159・161)

河内長野市文化財調査報告書第29輯

河内長野市埋蔵文化財調査報告書Ⅳ

---

1998年3月31日発行

発行 大阪府河内長野市原町396-3

河内長野市教育委員会

0721-53-1111

印刷 株式会社弘文堂印刷所

---

